

第42回授業研究協議会
「わかる学習指導」第13次研究・4年次

未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成
—教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して—

=授業案集=



《体育大会 3年演技「さくら舞い 竜翔る」》

令和8年10月7日(水)

岡崎市立竜海中学校

目 次

国語科	P. 1
社会科	P. 5
数学科	P. 9
理科	P. 13
音楽科	P. 17
美術科	P. 21
保健体育科	P. 25
技術・家庭科（技術分野）	P. 29
技術・家庭科（家庭分野）	P. 33
英語科	P. 37
特別支援教育	P. 41

故郷 ～自分にとっての読む価値を探る～

令和8年10月7日(水) 3年9組教室 授業者 十文字 優子

1 学習指導概要

子供観	本学級の生徒は積極的に作品を読み進めようとする生徒が多い。1学期に扱った詩「挨拶ー原爆の写真によせて」の学習では、言葉に注目することによって、捉え方は一つではないと理解している様子であった。しかし、作品の中で描かれている時代と現代を結び付けて考えたり、作品を捉えたことをもとに、将来、どのように生きていきたいかを考えたりするような、未来を見据えた考えをもつ生徒は少なかった。現代を生きる生徒は、デジタル機器が身近にある生活のなかで、多様な価値観に触れる機会がある。その一方で、その触れた価値観を自分のこととして捉えることができているのかは疑問が残る。なおかつ、生徒にとって、作品は古く、現代と結び付けて考えるには距離があるのだろう。距離を縮めるためには、作品を自分のこととして捉えて学習する必要がある。なぜ今「故郷」を読むのか、その経験が今後の自分にどのように生かされるのかを考える機会としたい。
教材観	本単元で扱う文学的文章「故郷」は、二十世紀前半の中国を舞台に描かれた作品である。作者である魯迅は「中国近代文学の父」と呼ばれ、文学によって社会を変えようと活動した人物として知られる。時代も国も異なる作品であるため、生徒にとって理解しにくい点はあるだろう。しかし、自分とは異なる状況の作品を読むことも、文学のおもしろさのひとつであると考えられる。本教材は帰郷した「私」の視点で語られる。回想を交えながら、当時の社会状況や身分制度によって変容し、分断されていく登場人物たちを描いている。また、「歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」という作品を締めくくる言葉は、魯迅の思想に通ずるものがある。苦しい状況の中でも、希望を見だし、歩みを進めることを求めた魯迅の考え方に触れ、自分の立場に置き換えて考えたり、現代社会と照らし合わせたりすることで、未来を見据えて考えを構築することができるだろう。
指導観	高度な情報化社会で生きる現代人は、AIなどの情報技術の発達により、自分に都合のよい「正解」を簡単に導けるようになった。これからの社会を生きる生徒には与えられた情報をそのまま受け入れるのではなく、自分で価値判断する力が求められる。そのために、批判的に考える能力を育成することが重要である。学習指導要領の「C読むこと」の「イ」には、第3学年において「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」が求められている。つまり、文章に描かれていることをそのまま受け入れるのではなく、自分の考えや経験と照らし合わせながら、作品を吟味したり検討したりすることが重要である。そこで、本教材を通じて批判的に作品を読み、作品を批評することを目的とするために、本単元を貫く課題を「『故郷』は現代を生き抜いていく中学生にとって、読む価値のある物語なのだろうか」と設定する。 導入段階の第1時では、本文を1度通読した時点で、読む価値があるかどうかを考える。また、クリティカルリーディング、すなわち批判的な読みの視点をもって読んでいくことを方向付ける。展開段階の第2時から第5時は、登場人物や時代設定を把握し、「私」「ルントウ」「ヤンおばさん」を中心に回想場面と現在の描かれ方を比較しながら、登場人物の描かれ方を読み取る。また、作品全体を通して魯迅が文学によって社会を改革しようとしたメッセージを捉える。第6時から第9時では、単元を貫く課題に迫る授業を展開する。単元を貫く課題を考えるうえで、現代という時代がどのような時代であるのかを生徒なりに捉える必要がある。そのため、作中の時代と現代との共通点や相違点を挙げる。そして、読む価値があるかどうかを判断するための観点として、時代や社会状況、人物の生き方や描かれ方、主題を選択し、読みを進める。また、仲間の読みから自分の読みを深める交流の時間を設定し、あらゆる視点から価値判断ができるように促す。本時では、これまでの読みを踏まえて、価値検討会議を行う。各自で選択した観点から、根拠を基にしながら価値があるかどうかを議論し、再考する。生徒自身が批判的な視点をもって、作品と向き合い、考えを再構築し、確かなものにしていく姿を期待したい。

2 単元計画 (10 時間完了)

目 標		(1)登場人物の設定や場面展開、情景描写から内容を捉えることができる。【知識及び技能】 (2)登場人物の生き方や心情の変化、時代背景と現代社会や自分自身とを比較しながら作品を批判的に読みながら、批評することができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3)時代に翻弄された人々の生き方について考え、自分自身の将来や社会について関心を持ち、よりよいものにしようとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	「故郷」は読む価値のある物語だろうか	○物語を通読した後、「故郷」が読む価値のある物語であるかどうかノートに記入する。 ○クリティカルリーディングについて、既習内容を例に挙げて学習する。
	2	「私」は故郷に対して、どのような思いがあるのだろうか	○第1、2 場面での「私」の故郷に対する思いを「私」の言動や情景描写から読み取る。 ○物語の時代設定を把握する。
展 開	3	「ヤンおばさん」はどのような人物として描かれているのだろうか	○回想の場面と現在の場面での「ヤンおばさん」の人物描写を比較しながら、「私」との関係性を読み取る。
	4	過去と現在を比べると「私」と「ルントウ」の関係はどのように変化したのだろうか	○回想の場面と現在の場面から、「ルントウ」の人物描写を捉え、「私」との関係の変化を読み取る。
	5	「私」の考える「希望」とはどのようなものなのだろうか	○第6 場面を読んで、「私」の考える「希望」とは何か考える。
	6	現代と「故郷」で描かれた時代にはどのような共通点や相違点があるのだろうか	○日本や世界で起きている社会的な問題や生徒の置かれている立場から現代を捉え、物語で描かれた時代とのつながりを考える。 ○生徒にとって「故郷」を読む価値があるかどうかを検討できる観点を決める。
	7	選んだ観点で読むと、「故郷」の価値の有無はどのようなになるだろうか	○「故郷」が生徒にとって読む価値がある物語であるかを判断するための観点を選んで、個人で読みを深める。
	8	仲間の意見から、どのように自分の読みを深めることができるのだろうか	○前時にスクールタクトにまとめた個人読みの内容(選んだ観点から解釈したこと)を基に交流する相手を選ぶ。 ○選んだ観点が同じ生徒同士で、これまでの読みを意見交流する。
	9 本時	「故郷」は現代を生き抜いていく中学生にとって、読む価値のある物語なのだろうか	○これまでの学びを踏まえて学級討論会を行い、「故郷」を読む価値について立場を明確にして議論するとともに、討論会を受けて「故郷」を読む価値について再考する。
終 末	10	「故郷」は現代を生き抜いていく中学生にとって、読む価値のある物語なのだろうか	○読み深めたことや討論会を受けて、観点に沿って批評文を書く。
評価規準		①登場人物の設定や場面展開、情景描写から作品の特徴を理解し、登場人物の心情や過去と現在との比較などを通して内容を捉えている。【知識・技能】 ②登場人物の生き方や心情の変化を捉え、作品の時代背景と現代社会を比較しながら、批判的な視点をもって批評文を書いている。【思考・判断・表現】 ③登場人物の生き方や社会との関わり方を考え、自分自身の生活を振り返りながら、将来について考えようと自分の意見を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（9／10時）

目 標	あらゆる視点から、作品の価値を考えることで、構築した自分の考えを再考し深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（b）】あらゆる視点の意見を参考にして再考することができるように、立場を明確に示した板書をする。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (5)	1 読む価値のある物語とはどのような物語かを定義付ける。(3) ・「読む価値」がある物語は考えるきっかけや影響を与えてくれる物語のことなんだな。	・「価値」の意味を定義づけるために、「影響を与えられた物語」や「考えるきっかけを与えられた物語」などと言葉を変換して伝える。
	2 学習課題をつかむ。(2) 「故郷」は現代を生き抜いていく中学生にとって、読む価値のある物語なのだろうか	・学習課題を板書する。
展 開 (37)	3 価値検討会議を行う。(32) ① 意見を発表する。 ・私は、時代背景の観点から、価値がないと思います。理由は、国や文化、環境など全てが違い、身近ではないと思ったからです。 ・僕は、人物の描かれ方から価値があると思います。理由は、登場人物を批判的に見ることができるからです。 ・私は、主題の観点から、価値があると思います。作者が伝えたい主題は将来のことを考えている私たちにとっても普遍性があると感じたからです。 ② 発表された意見について議論する。 質問 〇〇さんの意見について質問します。今とは違う部分が多くて、身近ではないから価値がないと言っていましたが、具体的にどのような部分が身近ではないのか教えてください。 返答 昔みたいに身分制度はないし、SNSが発達して自由に意見を言えるのが現代だから、昔とは全然違います。だから身近ではないと思います。 反論 〇〇さんの意見に反論します。私はむしろ身近だと思います。時代が動いているという点では共通点があるし、今、自分で立ち上がろうとする人は少ないと思います。だからこそ、鲁迅のメッセージは今につながります。 賛同 〇〇さんの価値がないという意見は納得できる部分もあると思います。私は人物の描かれ方を読みました。「私」は「ホンル」や「シュイション」のような子どもに思いを託すような感じで書いてあって、それは時代を超えて、私たち子供にも伝えているように感じます。しかし、時代や状況が変わる中で子どもに託すだけでいいのか、もっと現実と向き合ったほうがよいのではないかと疑問に思う部分があるからです。	・発表者が級友に向けて意見を言うことができるように、隊形をコの字型にし、価値が「あり」「なし」に分けた座席を設定する。 ・意見を明確に伝えることができるように、話型を「私は〇〇の観点から、価値がある/ないと思います。理由は～だからです。」と設定する。 ・少数派の意見も尊重するために、少数派の意見をもつ生徒から発表を促す。 ・作品の価値について当事者意識を高められるよう、現代を生き抜いていく中学生を意識している生徒を意図的に指名する。 ・より多くの生徒に発言の機会を与えられるように、教師が司会進行を行う。 ・意見を交流できるよう、質疑応答から始めるように示唆する。 ・質問に答えられない生徒がいた場合は、他に答えられる生徒を募って、意見をつなげる。 ・意見をつなげていくために、補足や反論、賛同がある生徒の発言を促す。 ★あらゆる視点の意見を参考にして再考することができるように、立場を明確に示した板書をする。 ・議論が停滞した場面では、全員での議論を止め、級友同士で相談する時間を設ける。 ・級友の意見に対して、現代の状況や身の回りの問題と作品とのつながりを意識した意見を言うことができた生徒を称賛する。 ・異なる視点からの価値に気づくことができるように、主題についての意見が出た際には「故郷」が中国の教科書にも記載されていることを紹介する。 ・意見のつながりを視覚化するために、矢印を使って板書する。 ・意見を再考できるよう、仲間の意見やこれまでの自分の読みを踏まえるよう伝える。 ・深く再考できるよう、板書を見て、価値検討会議を振り返るように促す。 ・ワークシートには、価値検討会議を受けて、複数の観点から価値を判断して書いてもよいことを伝える。 ・手が止まっている生徒には、導入で行った「作品の価値」の定義付けを行い、課題に立ち返るように促す。
	4 自分の意見を再考し、ワークシートに記入する。(5) ・私は時代背景の観点から価値があると思う。「故郷」の時代と現代は違いが多く、身近に感じられない部分があるが、将来のことを考えていく中学生にとって、自分の意志で考え、立ち向かっていく強さは大事であるというメッセージは普遍的だと思ったからだ。	

整 理 ・ 発 展 (8)	5 本時の課題を整理する。(3)	・ 価値検討会議の意見を整理して、板書にまとめる。
	6 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・ AIが発達して、答えがすぐに出てくるけれど、いろいろな視点での考えを受け止めると、自分の考えがさらに良くなるんだね。	・ 自分の生活や現代の問題などを振り返って、話し合うように促す。 ・ 自分の生活や現代の問題と作品を照らし合わせて考えることができた生徒を称賛する。
評 価	価値検討会議で、自分と異なる観点の意見と議論することによって、自分の意見を再構築し、ワークシートに自分の考えを記入することができたか。 【思考・判断・表現】	

日本を動かす主役は誰だ！？ ～武士政権の誕生の背景に迫る～

令和8年10月7日（水） 1年1組教室 授業者 辻村 堅吾

1 学習指導概要

子供観	4月の中学校入学から、少しずつ緊張感もとれてきた1年1組の32人。中学校の学習にも慣れてきた様子が見られ、社会科の学習に、比較的高い関心をもち、歴史的事象や社会的課題について、自分の意見や考えを形成しながら学ぶことを楽しみにしている生徒も多い。一方で、自分の考えを周囲に伝えたり、全体場で発言したりすることに対して苦手意識をもつ生徒も少なくない。そのため、考えをもっているが発言をためらったり、自信のなさから意見の表出を控えたりする様子が見られる。そこで、社会的な見方・考え方を働かせながら、課題を追究したり問題解決したりし、多面的・多角的に考察したことを説明したり議論したりする力を育成できる社会科の授業を目指したい。そして、他者との対話を通して自分の考えを深め、その内容を根拠とともに表現する力を伸ばし、自分の意見や考えを自信をもって発信できる生徒を育てたい。
教材観	本単元は、平安時代末期の武士の台頭から鎌倉幕府の成立と武家政治の展開までを扱う。武士が政治の中心となった理由や、平氏と源氏の動向、鎌倉幕府の政治の仕組みについて考える学習を通して、歴史的事象を多面的・多角的に捉えていく。また、立場によってさまざまな考えが生まれる内容でもあり、資料を根拠に自分の考えをもち、それを伝え合う活動に適していると考える。特に、平氏と源氏の政治や人々との関わりについてを比較することで、単に「どちらが勝ったか」を捉えるのではなく、異なる立場の人々がどのような願いや利益を求めて行動したのかを考察することができる。歴史的事象について理由や根拠を基に意見交流を行うことで、考察し表現する力を育成し、自分の考えを主体的に発信する力を伸ばしていきたい。
指導観	歴史的事象について自分なりの考えをもっているながら、その考えを他者に伝えたり、全体場で発表したりすることに苦手意識をもつ生徒が少なくない中で、資料や既習事項を根拠として考えを形成し、それを対話の中で表現する活動を重視しながら単元を進めていく。 単元の導入として、古代から中世に時代が移り、社会にはどのような変化があったのかを問い、貴族が中心であった社会から武士が台頭する社会へと変化していく様子を捉えることができるようにする。その中で、政治の中心が変わったのはなぜかという問題意識をもつだろう。そこで、武士はどのように成長し、政治においてどのように力をもつようになったかについて知る機会を設定する。土地の開発や治安維持を通して武士が勢力を伸ばし、保元、平治の乱などを通して武士が政治へ進出した背景を考察した生徒たちは、武士が武力を背景にして政治に関わるようになったことに気付くだろう。そこで、まず平氏が朝廷の政治の実権をどのように握っていたのかを捉えていく。平清盛の政治や日宋貿易などを学び、平氏政権の特色を捉えた生徒たちは、平氏は強い力をもっていたのに、なぜ滅んでいったのだろうという新たな疑問をもつだろう。そこで、「強い力をもっていた平氏の政権は、なぜ長く続かなかったのだろうか」と生徒たちから出た疑問を課題とし、根拠となる資料を使って調べ学習の時間を設定する。はじめは、平氏が武士であるにもかかわらず貴族に近い政治を行っていた、源氏の方が武士の期待に応えたなどの考えを形成していくだろう。その考えを形成した後、調べ学習を進めた生徒たちは、武士だけではなく、貴族や寺社など、異なる立場の人々にも目を向け、新たな視点で平氏の政権が倒れた理由や背景を探るようになるだろう。その後、仲間との対話や気になる意見を視覚化する「なるほどマーク」の使用を通して、自分の意見や考えに自信をもち、表現する活動に導く。さらに、それぞれの立場の人々が源氏についた理由を比較し、「立場は違っても平氏に対する不満や、自分たちの願いや利益を守りたいという思いが共通していたのではないか。」と考えられるようにすることで、生徒たちは課題の本質に迫っていくことができるだろう。

	その後、御恩と奉公や守護と地頭の仕組み、武士と民衆の生活との違い、鎌倉時代に広がった新しい仏教や文化など鎌倉時代の特色を学ぶ時間を設定する。源氏が政権をとったことが、歴史上とても重要であったと再認識するだろう。そして、単元全体を振り返りながら、武家政治の仕組みや人々の願い、文化の広がりなどを現代社会と関連付けて考察する時間を設定し単元の結びとする。平氏から源氏へと政権が移った歴史的事象を見直し、現代社会とのつながりを考察する学習の場の確保が、今後の日本や世界の在り方について考察・構想することにつながっていくことを期待している。また、この単元を通して、対話的な学習を中心に、歴史的事象を多面的・多角的に考察し、根拠を基に自分の考えを表現できる生徒が育っていくことを期待している。
--	---

2 単元計画（11 時間完了）

目 標		(1) 武士の誕生や成長と平氏や源氏を中心とした武家政治の成立の概要について理解することができる。【知識及び技能】 (2) 武士と政治の関わりや、平氏や源氏等が行った政治の特色について比較して考察し、根拠を基に自分の言葉で表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 武士の政治への進出と展開について関心を高め、現代と比較しながらこの時代の特色を追究していく中で、異なる立場の人々の願いや利益について考えようとする。【学びに向かう力、人間性等】		
段 階	時	学習課題	主活動	
導 入	1	古代から中世に時代が移り、社会にはどのような変化があったのだろうか	○小学校で学習した内容や古代についてふり返るとともに、資料から中世のイメージをもつ。	
	2	武士はどのように成長したのだろうか	○地方や都の武士が成長し、地方で起きた戦乱や武士と荘園との関係について考える。	
展 開	3	なぜ武士が政治において力をもつようになったのだろうか	○院政の仕組みを知り、武士がどのように政治のうえで力をもつようになったのかを考える。	
	4	平氏はどのようにして朝廷の政治の実権をにぎったのだろうか	○平清盛について知り、平氏の政治がどのように行われていたのかを考える。	
	5	強い力をもっていた平氏の政権は、なぜ長く続かなかったのだろうか①	○平氏と源氏の戦いや、源氏に関する資料から、武士の置かれていた状況を調べる。 ○武士以外の貴族や寺社に関する資料を調べ、さまざまな立場から追究する。 ○平氏の政権が続かなかった理由を話し合い、自分の考えを深める。	
	6	強い力をもっていた平氏の政権は、なぜ長く続かなかったのだろうか②		
	7 本時	強い力をもっていた平氏の政権は、なぜ長く続かなかったのだろうか③		
	8	鎌倉幕府は、どのようにして政権を担っていたのだろうか	○鎌倉を中心とした武士の政権は、どのような政治を行っていたのかを考える。	
	9	鎌倉時代の武士や民衆は、どのような暮らしをしていたのだろうか	○武士や民衆の生活に関する資料を見て、当時の人々はどのような生活をしていたのかを調べる。	
	10	鎌倉時代の文化や宗教は、どのように受け入れられたのだろうか	○鎌倉時代の文化や宗教は、どのような特色をもっていたのかを考える。	
	終 末	11	武士の社会の中で、今の時代ともつながっていることはなんだろうか	○これまでの武士の動きをまとめ、現代の生活とつながっていることをまとめる。

評価規準	①武士の誕生や成長と平氏や源氏を中心とした武家政治の成立の概要について、資料にある情報を基に理解している。 【知識・技能】
	②提示された資料や自分で調べたことを基に、武士と政治の関わりや、平氏や源氏等が行った事実について、比較したり関連付けたりしながら考察し、意見や考えを自分なりの言葉で表現し、仲間に伝えている。 【思考・判断・表現】
	③武士と政治との関わりについて関心をもち、今の時代と比較しながら当時の人々の立場や願い、背景についてさまざまな情報を収集したり、当時の武士や人々の動きや背景を追究したりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 本時の授業（7／11時）

目 標	当時の人々の様子や背景について各チームや学級で話し合う中で、平氏政権が長く続かなかった理由を、武士、貴族、寺社などの人々の願いや利益に着目し、資料を根拠として自分の言葉で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（b）】平氏の政権が長く続かなかったことについて、チームで話してまとめたり、学級で共有したりして、自分の考えや意見を共有する場を設定する。また、安心して自分の考えを表出できるようにするために、他者の考えと比較し、自分の考えに近い意見や根拠に納得した意見を「なるほどマーク」で可視化する。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (5)	1 資料を見て、当時は、どのような人たちがいたのかを思い出す。(4) ・この時代にも貴族がいたよね。 ・この時代に生まれた、武士がいるね。 ・武器をもっている僧兵がいるよ。 2 学習課題をつかむ。(1)	・視点をもった話し合い活動ができるよう、平安末期に平氏や源氏と関わりがあった人物が描かれた絵巻物風の資料を提示する。 ・当時の人たちの力関係を把握するために、「誰が力をもっていたのか」と問い返す。 ・学習課題を板書する。
	強い力をもっていた平氏の政権は、なぜ長く続かなかったのだろうか	
展 開 (35)	3 課題に対する自分の意見や考えをチーム内で伝え合い、意見をまとめる。(12) 【武士の視点】 ・平清盛は一族だけを重要な地位に就け、「平氏ばかりが得をしている」と武士が不満をもった。 ・源頼朝が武士たちの土地支配や権利を認める姿勢を示し、味方になることで自分の土地の支配を認めてもらえたから。 ・単純に、源氏の方がたくさん勝っていたから。 【寺社の視点】 ・平氏の南都焼討（東大寺・興福寺などへの攻撃）の影響を受けて、反平氏が多かった。 【貴族の視点】 ・平氏一族に政権をのっとられた感がある。貴族の中にも、平氏に不満をもっていた。	★ノートに書かれた個々の考えを確認し、平氏の政権が続かなかった理由について、同じ視点をもっている生徒で集まり、チームで話し合う時間を確保する。 ★チーム内で出された内容が分かるように、チームの中で出た意見や考えを、視点ごとに色分けした画用紙にまとめるよう指示する。 ・チームでの話し合いの中で、自分の意見や考えを積極的に表出できている生徒を称賛する。 ・課題に対する各チームの考えを学級全体で把握できるように、意見を書いた画用紙を黒板に貼るように促す。 ・考えの相違が整理できるよう、似た内容を近くに貼るなど、画用紙を貼る場所を助言する。

展 開 (35)	4 チームの代表が画用紙の意見を理由とともに発表し、自分が最も納得できる意見に「なるほどマーク」を貼る。(8) ・他のチームの画用紙を見ても、やはり自分の土地支配を認めてもらえたことが一番の原因だと思う。 ・平氏に対する不満をもっていたのは、武士だけだと思っていたけれど、寺社も平氏の対応に不満をもっていたんだな。 5 「なるほどマーク」が貼られた内容を見て、新たに気付いたことを発表し、自分の考えを深める。(15) ・源氏を支持したというよりも、平氏に対する不満が、どの立場の人にもあることが分かる。 ・武士だけじゃなくて、貴族や寺社の人たちも平氏から離れたから倒れたんだな。 ・武士、貴族、寺社と、平氏に対する不満が高まった時が一緒だったんだね。	・根拠にした資料に触れながら、画用紙に書いた意見を発表するように促す。 ★考えを明確にするために、その意見を選んだ理由を考えながら「なるほどマーク」を黒板に貼るよう助言する。 ・多角的な考えを得られるよう、「なるほどマーク」を貼る内容については、自分の最初の意見から変わってもよいことを伝える。また、自分が最も納得できる意見に貼るため、複数貼らないことを助言する。 ・平氏の政権が倒れた理由に迫るために、「なるほどマークをそこに貼ったのはどうしてか」と発問する。 ・発表された意見を比較したり、結び付けたりできるよう、構造的に板書する。 ・課題に対する考えを深めるため、「出された意見を関連させて平氏の政権が減んだ理由を考えてみよう」と補助的発問をする。
整 理 ・ 発 展 (10)	6 本時の学びを整理する。(5) 平氏に不満をもつさまざまな立場の人々にとって、それぞれの願いや利益を守りたいという思いがあり、その思いと源氏の勢力拡大が重なり、平氏の政権は減びてしまった 7 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・「おごれる者は久しからず」で、調子に乗ってはいけないことがよく分かった。 ・周りにいる人を大事にしないといけないし、何をするにもご褒美は必要だと思った。	・平氏の政権が減びてしまった理由について自分の意見や考えを整理できるように、ノートに書くよう指示する。 ・本時の学習内容と現代との関連を考えるクリエイティブチャットを行い、生徒たちの考えを伝え合う活動を支援する。 ・学ぶ意義や価値の実感を深めることができるよう、生徒同士の考えや意見をつなげる。
評 価	話し合いの中で出された資料や発表の内容を基に、平氏から人が離れ、源氏の勢力が拡大した理由や背景について、異なる立場の人々の願いや利益に着目しながら、自分の言葉で書いたり発表したりすることができたか。 【思考・判断・表現】	

関数 $y=ax^2$ ～自転車が進むまでの距離を探る～

令和8年10月7日(水) 3年7組教室 授業者 渡會 大貴

1 学習指導概要

子供観	数学の授業に関するアンケートを実施したところ、クラスの53%が「数学は好き」と回答し、主な理由として、級友と相談することでわからない問題が理解できるからという言葉が出ている。一方で、43%の生徒が「苦手・どちらかといえば苦手」と解答しており、数学について感じていることを記入する項目では、「何に役立つのか分からない」という記述も見られた。以上を踏まえて、本学級の生徒のよさである活発に交流できることを生かし、数学が身近に使われていることを実感できるようにしたい。また、数学を苦手とする生徒が抱えている思考力・判断力・表現力を問う問題に苦手意識を解消できるように本単元を設定したいと考えている。
教材観	昨年度までに生徒は、比例や反比例、一次関数など、関数について系統的に学習している。変数xとyの関係を式で表したり、表やグラフにまとめたりして、それぞれの関数の性質を理解し、これを活用した問題を解いてきた。今年度は、関数$y=ax^2$のyがx^2に比例することやグラフが原点を頂点とした放物線になることなどについて学習している。しかし、前述の通り、数学がどんなことに役立つのか実感できていない生徒がいる。これについて、本単元の教材は、日常生活と数学が結びついているという点で、十分によさを実感できるものと捉えている。自転車がブレーキをかけた瞬間の速さ(x km/時)と止まるまでの距離(y m)に関数$y=ax^2$の関係があることに気付いた生徒が、学区の狭く入り組んだ地形と学習で得た学びを関連付けることで、安全運転の重要性を再確認できるようにし、研究主題である自己の創造に向かうとともに、数学の有用性も実感できるようにしたい。また、本教材を通して調べるxとyの関係は、ブレーキの効き具合等の条件のずれから、班ごとに異なる結論になることが想定される。そこで、問題を解決するためには、式を特定する、あるいはみなす必要性があるという視点につなげる。答えが一意に定まらない特性のある教材だからこそ、多面的・多角的に問題を捉える生徒の意見を大切にして授業を展開したい。
指導観	本単元の授業は、関数$y=ax^2$の知識を教科書の内容に準じて学習し終えた後に行う。第1時の導入では、「学区での自転車走行時、何が危険かな。」と発問し、「交差点での飛び出し」という生徒の声を取り上げる。その後、「自転車が安全に止まれる距離はどれくらいなのだろうか」と生徒に問い、「速さによって変わる」という意見を取り上げる。この生徒の考えを基に、自転車の速度と止まるまでの距離を調べる実験を計画する授業を展開する。 第2時では、ブレーキ時の速さと止まるまでの距離を生徒が班ごとに実測し、記録する。その後、第3時で全ての記録を持ち寄り、表にまとめたり座標平面に点をとったりしてデータを集約した上で、第4時(本時)を迎える。生徒は、第1時で抱いた疑問「自転車が安全に止まれる距離はどれくらいだろうか」をもち続けた状態で本時を迎える。 本時では、班の中や全体で生徒が積極的に意見を共有できるように、班を意図的に組んだり、前時までのデータをまとめたワークシートを用意したり、ホワイトボードなどを活用したりして話し合い活動を行う。その際、実測値によるデータの誤差から$y=ax^2$の関数とみなしてよいのか結論がまとまらなかったり、自転車の速さの個人差から、安全に止まれる距離は人によって異なるという意見が出たりして、議論の収集がつかなくなることが想定される。そこで、$y=ax^2$の関数とみなした上で適用問題を解く。関数を活用すれば、止まれる距離のおよその見当がつくことを授業のまとめとして整理し、クリエイティブチャットを行う。改めて安全に気を付けて自転車を利用したいという自己の創造を感じられる意見が出るだろう。また、本時の学びから、生徒が日常生活の他の場面でも関数$y=ax^2$の関係があるのではないかと考えを広げること、第5時へとつなげる。単元を通して生徒が、数学が日常生活に存在していることを実感するとともに、有用性も実感できるようにしたい。

2 単元計画（5時間完了）

目 標		(1) 関数$y=ax^2$の関係を表、式、グラフ等に表示し、その関係について理解することができる。 【知識及び技能】 (2) 関数$y=ax^2$として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフ等を用いて、値の変化や対応の特徴を見いだすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 粘り強く問題に取り組むことで学習に生かそうとしたり、日常生活にある関数$y=ax^2$の関係や有用性について考えたりしようとする。 【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	自転車安全に止まるまでの距離を調べるためには、どのような実験を行えばよいだろうか	○自転車でブレーキをかけた瞬間から止まるまでの距離について疑問をもち、実験方法を考える。
展 開	2	自転車の実験からブレーキ時の速さと止まるまでの距離はどんな数値になるのだろうか	○班ごとに実験を行い、ブレーキ時の速さと止まるまでの距離の実測値を求め、どのような関係があるのか見通しをもつ。
	3	自転車の実験結果を集約すると、どのようなデータが得られるのだろうか	○全ての班の実験で得られた実測値を表やグラフ等を集約し、データの関係性を予想する。
	4 本時	自転車のブレーキ時の速さと止まるまでの距離には、どのような関係があるのだろうか	○集約したデータを基に関数 $y=ax^2$ の式を導くとともに、速度ごとに対する制動距離の関係性について議論する。
終 末	5	身の周りに関数 $y=ax^2$ の関係になるものには、どのようなものがあるのだろうか	○生徒から挙げた意見を基に、他の $y=ax^2$ の関係にある関数について調べる。
評価規準		①関数$y=ax^2$のyはx^2に比例することやグラフが原点を通る放物線になることなどの性質を理解し、式を導いたり問題を解いたりしている。 【知識・技能】 ②表、式、グラフ等から見いだした性質を根拠にして、二つの数量の特徴について話し合ったりまとめたりしている。 【思考・判断・表現】 ③関数$y=ax^2$を使って考えた問題を、他の問題にも応用しようとしたり、日常生活の他の場面でも使えないか考えを広げたりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（4／5時）

目 標	実験結果をまとめた自転車がブレーキをかけたときの速さと止まるまでの距離のデータから、関数 $y=ax^2$ の関係を見いだすことができる。【思考力、判断力、表現力等】													
手だて	【手だてⅡ（b）】自転車がブレーキをかけたときの速さと止まるまでの距離の関係について意見を出しやすくするために、意図的に班を組み、その中で話し合っってホワイトボードにまとめたり、まとめたホワイトボードを基に全体で発表したりする場を設ける。													
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて												
導 入 (5)	1 前時の自転車の実験を集約したデータから得られた気づきを発表する。（3） ・ブレーキをかけたときの速さと止まるまでの距離には、比例の関係がありそう。 ・$y=ax^2$の関係がありそう。 ・反比例ではなさそう。	・自転車のブレーキをかけたときの速さと止まるまでの距離の関係について見通しをもてるよう、生徒の発表内容を板書する。 ・追究意欲を高めるために、生徒が調べた内容と気づきから学習課題へつなげる。												
	2 学習課題をつかむ。（2）	・生徒の発言から学習課題をつくる。												
	自転車のブレーキ時の速さと止まるまでの距離には、どのような関係があるのだろうか													
展 開 (27)	3 個人で考えをまとめる。（7） <table><tr><td>ブレーキ時の速さ x (km/h)</td><td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td><td>20</td></tr><tr><td>止まるまでの距離 y (m)</td><td>0.1</td><td>0.4</td><td>0.9</td><td>1.5</td><td>2.4</td></tr></table> ・表で見るとxを2倍、3倍、…してもyは2倍、3倍、…にならないから、比例ではないと思う。 ・グラフに点をとってみると、原点を通る放物線になりそうだ。	ブレーキ時の速さ x (km/h)	4	8	12	16	20	止まるまでの距離 y (m)	0.1	0.4	0.9	1.5	2.4	・自分の考えをもてるように全ての班の実験結果をまとめたワークシートを配付し、これに自分の考えをまとめる時間を設ける。 ・生徒が数量関係をグラフでも考えられるように「今まで変化を調べるときに表以外に何を使ってきたかな」と発問する。
	ブレーキ時の速さ x (km/h)	4	8	12	16	20								
止まるまでの距離 y (m)	0.1	0.4	0.9	1.5	2.4									
	4 個人で考えた内容を基に班で意見を共有し、 x と y の関係を式に表す。（8） ・xの2乗に0.006をかけるとyになりそうだから、式は$y=0.006x^2$になると思う。 ・とった点を通るように直線を引いてみたら、他の座標では、線と点が大きく離れているところがたくさんあるから、比例にはならない。 ・原点を通る放物線から大きく離れている点がいくつかあるから本当に$y=0.006x^2$になるといってよいか、よくわからない。 5 x と y の関係が $y=0.006x^2$ とみなせることを、全体場で意見を共有しながら確認する。（12） ・大体だけど、$y=0.006x^2$のグラフ上にたくさん点があるから、$y=0.006x^2$といってもいいと思う。 ・いろいろなxとyの値について調べてみたら、yをx^2で割ったらだいたい0.006になったから、放物線の関数になるといってもいいと思う。 ・放物線から大きく離れている点もあるけれど、ブレーキのかけ方が弱い分、止まるのに距離がかかったんだと思う。	★自転車のブレーキをかけたときの速さと止まるまでの距離の関係について意見を出しやすくするために、班ごとにホワイトボードを配付し、ホワイトボードに話し合った内容をまとめるように伝える。 ・話し合いが活発に行えるように机間指導し、停滞している班には「表やグラフからどんな関係がありそうか」と助言し、すでに意見がまとまっている班には、他の見方・考え方はないかを考えるよう声をかける。 ★各班の考えが伝わりやすいよう、ホワイトボードを使って説明するよう伝える。 ・誤差を許容してよいことを確かめるために、外れ値はなぜ生じてしまうのか問い、ブレーキを握る強さなど条件の違いから実測値のずれが出ることを確認する。 ・ $y=0.006x^2$ とみなすことの有用性に気付けるように、「実験していない速度に対する止まるまでの距離を求めるには、どのようにしたらよいか」と発問する。												

整理・発展 (18)	6 本時の学びを整理する。(3)	・本時の学習の要点を確認できるように、生徒とのやり取りを通じて板書を整理する。
	$y=0.006x^2$ とみなすことができ、みなすことで自転車が止まるまでの距離を推定できる	
	7 適用題を解く。(5) ・ $y=0.006x^2$ の式に代入して $0.006 \times 30^2 = 5.4\text{m}$ ・ $30 \div 20 = 1.5$ だから、 $2.4 \times 1.5^2 = 5.4\text{m}$	・式の有用性に気付けるよう、表にない x の値で、単元の導入で話題にした坂道を下る際の速さ(30km/h)に対して、自転車が止まるまでの距離を求める時間を設ける。 ・創造的に考えられるよう、 $y=ax^2$ の関係について気付いたことや本時で考えた問題からつなげて感じたこと、日常生活と関数 $y=ax^2$ のつながりについて思ったことなどについて言及している生徒を意図的指名し、全体で共有したのち、称賛する。
評価	8 クリエイティブチャットに取り組む。(10) ・竜海中には狭い道や交差点がたくさんあるから、自転車に乗るときはスピードの出しすぎには注意したい。 ・車や電車が急ブレーキをかけたときに止まるまでの距離の関係も同じ式なのか気になった。 ・滑りやすい地面とか条件が変わると式も変わってくると思うから、それも調べてみたい。	
	自転車ブレーキをかけたときの速さと止まるまでの距離の実験結果をまとめたデータが、関数 $y=ax^2$ の関係であることを表や式、グラフ等から判断し、級友と話し合ったり、まとめたり、発表したりして、見いだすことができたか。 【思考・判断・表現】	

光の世界 ～光はどのような道筋をたどるのだろうか～

令和8年10月7日（水） 第3理科室 授業者 都築 周平

1 学習指導概要

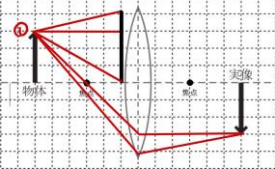
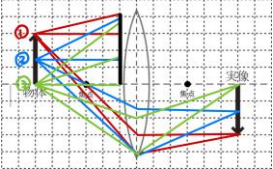
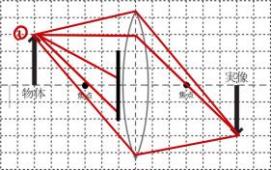
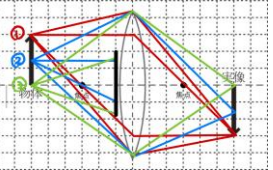
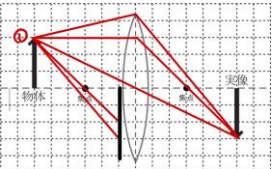
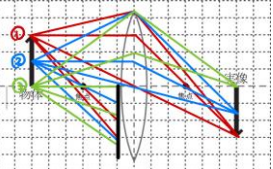
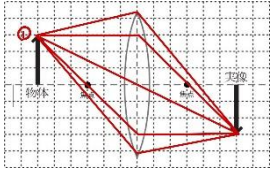
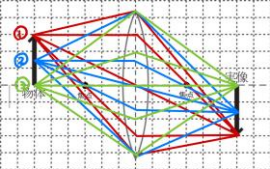
子供観	生徒は生活の中で、鏡に姿が映る様子や水中の物体が実際とは異なる位置に見える様子、道路標識や自転車の反射板が光る様子などを日常的に目にしている。しかし、それらを光の反射や屈折と関連付けて考えたり、その仕組みを科学的に説明したりする経験は十分ではない。 これまでの学習では、「生物の分類」や「気体の性質」において、観察や実験の結果を根拠にそれぞれの共通点や相違点を見いだしたり、考察したりすることができた。一方で、目に見えない気体を図や粒子モデルを用いて表現し、説明することには課題が見られる。 実験には意欲的に取り組む生徒が多く、自ら確かめようとする姿も見られる。その一方で、目に見えないものを自分なりに表現したり、複数の事象を関連付けて考察したりすることには支援が必要である。本単元では、光の反射や屈折、凸レンズについて探究的に学習することを通して、目に見えない光の道筋を図やモデルで捉え、結果を根拠に科学的に説明する力をさらに高めたい。
教材観	標識の反射板や鏡、水中の物体の見え方などは、生徒が日常生活の中で経験している身近な光の現象である。また、虫眼鏡は幼少期から親しんできた道具であり、生徒は「物体を大きく見せる道具」として認識していることが多い。しかし、虫眼鏡には光を集めて像をつくる働きもあり、新たな見方を得ることができる教材である。 これらの教材はいずれも、普段は目に見えない光の道筋を実験や作図によって可視化できる点に価値がある。さらに、反射や屈折、凸レンズによる像のでき方は一見別々の内容に見えるが、いずれも光の道筋という共通の視点で捉えることができる。そのため、生徒が個々の知識を関連付けながら理解を深めることのできる教材である。 そこで本単元では、「光はどのような道筋をたどるのだろうか」という単元を貫く課題を設定する。反射や屈折、凸レンズによる像のでき方を関連付けて考えることで、理科の見方・考え方を働かせながら科学的に探究する生徒の育成を目指したい。
指導観	単元の導入では、自動車の反射器や合わせ鏡、丸底フラスコや水中の物体などを用いて、反射や屈折に関する身近で不思議な現象を提示する。これらの現象との出会いを通して問題意識を高め、「光はどのような道筋をたどるのだろうか」という単元を貫く課題を設定する。 単元の中盤では、観察や実験を通して光の反射や屈折の規則性を見いだせるようにするとともに、虫眼鏡が凸レンズであり、光を集めて像をつくる働きをもつことを理解できるようにする。また、実験結果を基に光の道筋を作図で表現する活動を取り入れ、目に見えない光の道筋を、根拠をもって説明する力を高めたい。さらに、実験結果を、図を使って説明したり作図を基に現象を考察したりする活動を通して、光の反射や屈折による現象を科学的に捉える力を育てたい。 単元の終末では、凸レンズの一部を隠したときにできる像について探究的に学習する活動を位置付ける。多くの生徒は像が欠けると予想すると考えられるが、実際には像は欠けずに暗くなる。この現象について実験結果と作図を関連付けながら考察することで、物体から出た光がレンズ全体を通して像を形成していることを理解し、光の道筋に対する見方・考え方をより確かなものにしたい。また、自分の予想と結果との違いを基に考察することで、科学的に探究する過程のよさを実感できるようにしたい。 学習の終末には、単元を貫く課題に立ち返り、反射や屈折、凸レンズを光の道筋という共通の視点で捉え直すことで、現象を科学的に説明する力を育てたい。

2 単元計画（9時間完了）

目 標		(1) 光についての観察、実験を通して、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきについて、物体の位置と像の位置および像の大きさの関係を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。 【知識及び技能】 (2) 光について問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、光の性質の規則性や関係性を見いだして表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 光に関する事物や現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、光と関わりのあることを全体として見ようとする。 【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	【単元を貫く課題】光はどのような道筋をたどるのだろうか	○反射と屈折の光の現象と出会い、光の道筋（進み方）について考える。
	2	光が鏡などの物体で反射するとき、光はどのように進むだろうか	○鏡に光を当てる実験を通して、反射する光の道筋の規則性を考える。
展 開	3	光が透明の物体を通りぬけるとき、光はどのように進むだろうか	○直方体のガラスを通り抜ける光の道筋から、光の屈折の規則性を考える。
	4	コインが浮かび上がって見えるのはなぜだろうか	○水の中のコインが浮かんで見える現象を追究する。
	5	虫眼鏡にはどのようなはたらきがあるだろうか（大型レンズ）	○虫眼鏡のはたらき（大きく見える、逆さまに見える、像を映す）を実験で確かめる。
	6	凸レンズによる像のでき方にはどのような決まりがあるだろうか	○凸レンズによる像のでき方を光源とスクリーンを使って調べる。
	7	凸レンズによる像はどのように表せるだろうか	○実験結果から、凸レンズによる像のでき方を作図で表す。
終 末	8 本時	凸レンズの一部を隠すと光はどのように進むだろうか	○凸レンズの一部を隠すとどのような像ができるか、隠し方をチームに委ね、探究する。
	9	光はどのような道筋をたどるのかまとめよう	○【単元を貫く課題】に対し、追究レポートを書く。
評価規準		①光に関する事物や現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きなどについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【知識・技能】 ②光に関して問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきから規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。 【思考・判断・表現】 ③光に関する事物や現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（8／9時）

目 標	凸レンズの一部を隠すと実像が暗くなる理由を説明することができる。【思考力、判断力、表現力等】
手だて	【手だてⅡ（a）】 課題意識をもてるようにするために、さまざまな凸レンズ（通常の凸レンズ、上部を隠した凸レンズ、右半分を隠した凸レンズ、中心を隠した凸レンズ）を提示し、どのような像ができると考えられるか問いかける。 【手だてⅡ（b）】 光の道筋を考えやすくするため、生徒の必要に応じてヒント図を配付する。

段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (5)	1 通常の凸レンズと一部を隠した凸レンズに出会う。(4) ・半分隠したレンズだと、できる像も半分になるのではないかな。 ・レンズの隠した部分が消えるのかな。 2 学習課題をつかむ。(1) 凸レンズの一部を隠すとどのような像ができるだろうか	★課題意識をもてるようにするために、通常の凸レンズ、上部を隠した凸レンズ、右半分を隠した凸レンズ、中心を隠した凸レンズを提示し、どのような像ができると考えられるか問いかける。 ・課題意識を共有できるようにするため、数名を指名し、発表を促す。
展 開 (35)	3 自分の考えを書き、実験を行う。(12) ・レンズの上半分を隠して、像を作ってみたい。像は、下半分が映らないのではないかな。 ・像は、左右反転になるから、隠した側と反対側が映らなくなるのではないかな。 ・穴あきの用紙を作って、隠してみたい。隠した通りに像が映らなくなるのではないかな。 4 実験結果を全体で共有する。(3) ・像の形は変わらなかった。 ・像はレンズを隠す前より暗くなった。 ・なぜ形は変わらず、暗くなるのだろう。 5 実験結果を考察する。(20) 上半分を隠したとき   中心を隠したとき   下半分を隠したとき   ・作図をして比べると、レンズを隠すことで光の量が減っていることがわかる。 ・光は全方向に出るから、隠した部分以外にも光が集まって、像の形は変わらない。	・自分の考えをもつことができるように、ノートに書く時間を設けるとともに、対話をもちかけて考えの言語化を促す。 ・意欲的に追究できるようにするために、レンズの隠し方を生徒に委ねる。 ・追究に困っている生徒には、レンズを上半分や右半分を隠すようなシンプルな方法で取り組むとよいと助言する。 ・実験結果を整理できるよう、スクールタクトで結果を見比べ、像は欠けるわけではなく、暗くなったという結果を全体で確認する。 ・結果に対する生徒の疑問を拾い、「なぜそうなったのか」と追発問する。 ★光の道筋を考えやすくするために、必要に応じてヒント図を配付する。   ・考察をより明確にするために、再実験してよいことを伝える。 ・他者の考えと自分の考えを比較できるように、スクールタクトを共同閲覧モードにして、考えを共有する場を設ける。 ・より妥当な考えに迫るために、「像が暗くなった理由、形が変わらない理由の両方を説明できている作図はどれか」と問いかける。 ・学びを整理できるようにするため、作図と実験結果を関連付けてペアで説明し合う場を設ける。 ・自分の学びと向き合い、学びを整理するために、ノートにまとめを書く時間を設ける。

整 理 ・ 発 展 (10)	6 本時の学びを整理する。(5)	・ 本時の学びを整理するために、数名の生徒を指名し、まとめの発表を促す。
	凸レンズの一部を隠しても像の形は変わらず、像に集まる光の量が減ることによって、像は暗くなった	
	7 クリエイティブチャットに取り組む。(5)	・ 学ぶ意義や価値の実感を深めることができるように、生徒同士の創造性をつなげる。 ・ 創造したことを広げ深めるために、発言内容を学級全体へ投げかけ、学級全体で考えを膨らませられるようにする。 ・ 実生活とのつながりや今後の生活に活用できるという視点で話す生徒を称賛する。 ・ 新たに追究したい疑問があれば、その場で追究する場を設ける。
評 価	・ 像の形が変わらない理由と暗くなった理由を図や言葉で正しく説明することができたか。 【思考・判断・表現】	

My Music ～明日へ 祈りを紡ぐ音～

令和8年10月7日（水） 第2音楽室 授業者 尾崎 秀彰

1 学習指導概要

子供観	本学級の生徒たちは、給食時に流れる J-POP を口ずさんだり、曲に合わせて体を動かしたりするなど、日常的に音楽を楽しんでいる。また、多くの子供がスマートフォンやインターネットを利用し、古今東西の多様な音楽に触れている。修学旅行で互いがリクエストした曲を聴き合う姿からは、音楽によって気持ちが高まったり場の雰囲気がつくられたりすることを感じ取っている様子が見られた。一方で、生徒が音楽を聴く際には、「明るい」「楽しい」「カッコいい」といった印象で捉えることが多く、音楽に込められた思いや意図と結び付けて考える経験は十分とはいえない。また、自分の思いや願いを、どのような音で表現するのかを考える経験も多くはない。音楽の根底には、よりよい明日を願う「祈り」ともいえる思いがあると考えられる。本題材では、時代や文化の異なる音楽に託された祈りとその音楽的な表現との関わりを捉えさせたい。その上で、生徒一人一人が、自分にとっての「祈り」を見つめ、自分なりの「祈りの音」を創作することを目指す。
教材観	古代から日本で演奏され、現代でも伝承されている雅楽は、宮中での儀礼や神事、仏教法会などの場で演奏されるものであった。平安時代に描かれた「阿弥陀如来来迎図」には、阿弥陀如来とともに、雅楽の楽器を持った多くの仏たちの姿が見られる。雅楽は天人が奏でる音楽であり、その音を想像しながら、権力者たちは極楽往生を祈った。また、古代から伝承されている民謡である田楽は、田植えの前に行われる「田遊び」から発展したもので、人々は田楽を奏で、踊ることでその年の豊作を祈った。そのような精神は、時代とともに形を変えながらも、現代まで受け継がれてきていると考えられる。人と音楽との関わりの中に、自分の力だけでは実現できないことを音楽に託すという心の働きがあり、本題材ではそれを「祈り」という言葉で取り扱う。そしてさまざまな解釈で表現された古今の「祈り」の音楽、すなわち雅楽「武徳楽」や黛敏郎作曲「涅槃交響曲」、久石譲作曲「天人の音楽」、極楽 RADIO「極楽のリズム」などを鑑賞する中で、生徒たちが自分にとっての「祈り」の表現の音を見つけ、構成し、音楽作品を創作することを目指す。
指導観	導入では、現代の自分たちが音楽に求めるものを考えることから、古代の人々が音楽に求めたものに思いをはせ、そこに時代が変わっても共通する精神がないかを考える活動をきっかけとする。創作にあたっては、一つのジャンルに固執した表現にならないように、さまざまな表現の作品を鑑賞し、それらの音楽のどのような特徴に作者の思いや祈りを感じたかを考えることを大事にしていきたい。雅楽「武徳楽」や久石譲作曲「天人の音楽」などのどこか牧歌的で穏やかな曲想に心の安らぎを感じたり、極楽 RADIO「極楽のリズム」の、一聴すると関連性がないようにも感じられるレゲエのリズムも、背景を調べることで音楽に託された思いと関連付けたりすることができるだろう。その上で、どのような音に思いや祈りを託すかを考え、実際の雅楽の楽器を用いて音を構成するか、アプリケーション「カトカトーン」を用いて音を構成するか、アプリケーション「Launch Pad」を用いて音楽素材を組み合わせるかのいずれかの方法から選ぶ。自分なりの表現方法を考えた上で、同じ方法を選んだ生徒同士でチームを作り、作品を創作することで、チームの中で自分の思いや意図を語りながら協働的に創作活動を進めることができるだろう。本題材を通して、音楽文化に関心を持ち、自分たちの生活と音楽がどのように関わっているかについて、より考えを深めることができるように指導したい。

2 単元計画（5時間完了）

目 標		(1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解し、表したいイメージに沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表現することができる。【知識及び技能】 (2) 音色、リズム、音の重なり、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すか思いや意図をもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的、協働的に創作の学習活動に取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	生活における音楽の役割とは何だろうか	○平安時代の仏画や既習の古代民謡「田楽」を鑑賞し、日本人が音楽に何を求めてきたのか意見交流をする。
展 開	2	「祈りの音楽」とは、どのようなものだろうか	○参考曲を鑑賞したり、雅楽の楽器を演奏したり、My タブレットのアプリを使ったりして、自分なりの「祈りの音楽」のイメージを膨らませる。
	3	「祈り」のイメージを表現するためには、どのような音を組み合わせたらよいだろうか	○自分なりの「祈りの音楽」のイメージを共有し合い、チームでまとまりのある音楽作品を創作する。
	4 本 時	「祈り」のイメージは、どのような音で表現できるだろうか	○中間発表会を行い、「祈り」のイメージがどのような音として表現されているか鑑賞し合い、意見交流をする。
終 末	5	生活の営みと音楽には、どのような関係があるだろうか	○中間発表会を経て作品を完成させ、作品の発表会を行い、古代から現代にかけて、人が生活の中でどのように音楽と関わってきたのか、意見交流をする。
評価規準		①実際の楽器の音色やアプリケーションの音源の特徴を理解し、表現したいイメージに沿って構成することで音楽作品を創作している。【知識・技能】 ②創作を進める上で、なぜこの音を選んだのか、どのようなイメージを表現したかを説明したりワークシートに記入したりしている。【思考・判断・表現】 ③級友と意見交流をしながら意欲的に創作活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（4／5時）

目 標	自作品における創作の意図を明らかにし、工夫して伝えとともに、視点をもって相手の作品を鑑賞し、創作の意図を感じ取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（a）】視点をもって相手の作品を鑑賞することができるように、各チームの「創作の意図」一覧を配付する。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (10)	1 中間発表会の準備をする。(10) ・各チームの「創作の意図」一覧から、「自分たちと似ている」「自分たちと違う」「特に興味をもった」「疑問に思うので質問してみたい」の中のどの視点で鑑賞するかを考える。	★視点をもって相手の作品を鑑賞することができるように、各チームの「創作の意図」一覧を配付する。
	「祈り」のイメージは、どのような音で表現できるだろうか	
展 開 (32)	2 中間発表会を行う (32) ・チームごとに自作品を発表し、その作品に込めた思いや意図を伝えたり感じたことを発表したりする。 ○自作品を発表する時の工夫 ・特に聴いてほしい部分や祈りのイメージを表現した音を分かりやすくするために、途中で止めたり部分的に抜き出したりして発表する。 ・曲のイメージを表現した画像や言葉を提示する。 ○相手の作品を鑑賞しての感想 ・雅楽の楽器は神様に捧げるような神秘的な音色がするから、祈っているような雰囲気音楽になる。 ・太鼓や笛、鉦など民謡で使われるような素朴な音色の楽器を使うと、のんびりしたような平和な感じの音楽になる。 ・人種差別や社会問題を背景としたレゲエやR&Bの曲想の音楽にすることで、よりよい社会への祈りを表現できる。	・「祈り」のイメージを表現した具体的な要素、すなわち旋律や和音、音色、リズム、音の構成、ジャンルを明らかにして発表することができたチーム、および作品を鑑賞して自分なりの感性で祈りのイメージを感じ取り、発表することができた生徒を称賛し、その要素を板書する。 ・生徒同士のイメージを共有しやすくするために、発表チームに「この作品を作るときに参考にした作品はどれかな」と問い、その曲の中で特に思いを感じた部分を伝えるように助言する。 ・活発に意見交流できるように、あらかじめ決めた鑑賞の視点を基に、「自分たちと似ているという視点で聴いた人はいるかな」と問いかける。 ・安心して発表できる雰囲気をつくるために、各チームの作品と思いや意図の発表を肯定的に受け止め、必要に応じて補足をしたり、作品のよさを教師の言葉で紹介したりする。

整 理 ・ 発 展 (8)	3 本時の学びを整理する (3)	・ イメージと音とをつなぐ思いや意図の大切さに気付くことができるよう、これまでの制作や発表を振り返る場を設け、いちばん大切にすることは何かを問う。
	旋律や和音、リズムや音色など、さまざまな音楽の要素に思いや意図をもつことで、音楽で「祈り」を表現することができる	
	4 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・ 音楽は言葉ではないから、音楽で思いを伝えることはとても難しい。 ・ 歌詞のない音楽でも「明るい」とか「悲しい」などの雰囲気が伝わるのはなぜだろう。	・ 本時の学びを実生活での音楽体験と結び付けることができるように、生徒同士の意見をつなげる。
評 価	「祈り」のイメージを音楽でどのように表現するか、具体的な要素を明らかにして発表したり、考えをまとめたりすることができたか。 【思考・判断・表現】	

今のわたしから未来のわたしへ ～ミクストメディアによる人物表現～

令和8年10月7日（水） 第2美術室 授業者 太田 真喜

1 学習指導概要

子供観	本学級の生徒は、自分の考えや思いをもって制作に取り組むことができるものの「うまく描くこと」や「見た目の美しさ」を意識するあまり、表現したい内容よりも技術面に目が向いている姿が多く見られる。また、自分の思いや表現意図を言葉で説明したり、その思いに合った表現技法を主体的に選択・判断したりすることに難しさを感じる生徒も少なくない。一方で、友達との対話を通して新たな見方や考え方に気づき、自分の表現をよりよくしようとする姿が見られる。しかし、助言をそのまま受け入れてしまったり、自分の考えに自信がもてず表現を変えてしまったりする生徒もいるため、他者の意見を参考にしながら、自分の表現意図を大切に判断する力を育てる必要がある。 卒業を控えた3年生のこの時期だからこそ自分自身と向き合い、未来の自分へ伝えたい思いを作品として表現することは、自分らしさや価値観を見つめ直す貴重な機会と学びになると考える。
教材観	本題材「今のわたしから未来のわたしへ」は、卒業を控えた中学3年生が、これまでの自分を振り返り、現在の自分らしさや大切にしている思いを見つめ直し、それらを自分らしい表現方法で作品として表す題材である。作品を未来の自分へのメッセージとして残すことで、現在と未来をつなぐ意味のある制作活動となることをねらいとしていると考える。 本題材では、「何を表すか」だけでなく、「どのように表すか」を生徒が選択できることを大切にしている。身体の一部や全身など、生徒一人一人が伝えたい思いに応じて表現の対象を選び、これまで習得してきた描写や色彩、構成、モダンテクニック、立体造形などのさまざまな表現方法や画材を組み合わせながら、自分らしい表現を追究することができるようにしている。表現方法を自ら選択・決定する過程を通して、主体的に表現を工夫する力を育むことが期待できる。 また、本題材は中学校3年間の美術学習の集大成として位置付けることができる。これまでに身に付けた知識や技能を総合的に活用し、自分の思いや考えを表現する経験を積むことで、美術文化や自己表現への理解を深めるとともに、自分自身を肯定的に捉え、これからの人生につながる学びとなることを期待している。
指導観	指導にあたっては、生徒が「今の自分」を多面的に見つめ、自分らしさや大切にしている思いに気づくことができるよう、自己を振り返る活動を十分に行う。その際、一つの正解を求めるのではなく、友達との対話や鑑賞活動を通して、自分では気づけなかったよさや価値観に触れられるように支援していく。 また、生徒が主体的に表現方法を選択し、試行錯誤しながら制作を進められるよう、画材や技法を限定せず、それぞれの思いに応じた多様な表現を認めることも大切にする。教師が参考作品をはじめに提示するが、それが全てではないことをしっかりと伝え、生徒自身が表現の意図を考え、より思いが伝わる作品へと高めていけるよう支援することで、一人一人の個性を生かした作品づくりにつなげたい。 さらに、本時では「キュレーター活動」を取り入れ、作者の思いを理解した上で、より思いが伝わる作品にするための対話を行う。作品の出来栄を評価するのではなく、「作者は何を伝えたいのか」「そのためにはどのような表現が効果的か」という視点で交流することで、自分とは異なる考え方や表現方法に触れ、自らの表現を見直したり、深めたりする機会としたい。このような対話的な学びを通して、生徒が自己の表現を客観的に捉え、表現する喜びや他者と学び合うよさを実感できる題材を目指していく。

2 単元計画 (10 時間完了)

目 標		(1)色や形、構成、材料や用具、これまでに学習した表現方法の特徴を理解し、自分の意図に応じて適切に選択または活用し、表現することができる。【知識及び技能】 (2)自分自身を見つめ直し、伝えたい思いや願いを基に発想あるいは構想するとともに、表現意図に応じて画材や技法、構成を工夫し、自分らしい表現を追究することができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3)自分の思いや表現をよりよいものにしようと主体的に制作に取り組むとともに、対話や鑑賞を通して他者の考えを受け止め、自らの表現を見直しながら最後まで粘り強く制作しようとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	今の自分らしさや大切にしている思いを見つめるには、どうしたらよいだろうか	○今の自分を振り返って表したいテーマを考える。さまざまな自分を表した作品を鑑賞し、表現の多様性を知る。
	2	自分の思いを最も表すことができるモチーフや表現方法は何だろうか	○身体や画材、技法を選択し、創作ノートにアイデアスケッチを複数描く。
展 開	3	自分の思いが伝わる構成や表現にするためには、どのような表現方法があるだろうか	○構図や色、技法を試しながら下描きや試作を行い、制作の見通しを立て構図を決める。
	4	自分の思いを表すために、どのように表現を形にしていけばよいだろうか	○選択した画材や技法で身体表現を中心に制作を進める。
	5	自分の思いが伝わる表現にするには、どうしたらよいだろうか	○前時で制作した未完成の身体を背景の上に置き、現段階での完成予想の写真を撮り、背景を中心に制作する。
	6 本 時	自分の思いがより伝わる作品にするには、どうしたらよいだろうか	○作者やキュレーターを分担しキュレーター活動を行い、作者の意図を聞き取り「何を伝えたいか」「どの表現が効果的か」「もっと伝わる工夫は何か」という視点で対話した上で、改善や発展に向かう。
	7	対話を生かして、自分らしい表現をより高めるには、どうしたらよいだろうか	○キュレーター活動で得た意見を参考に、必要に応じて画材や表現方法も見直しながら制作を進める。
	8	細部まで工夫し、自分の思いをより伝えるには、どうしたらよいだろうか	○作品の完成度を高める、細部の調整、全体の仕上げをする
終 末	9	作品全体を見直し、思いが伝わる作品に仕上げるには、どうしたらよいだろうか	○最終調整、必要に応じた修正、仕上げ作業を行う。
	10	作品を振り返り、今の自分を未来へとつなぐには、どうしたらよいだろうか	○作品鑑賞会を行い、作品への思いや工夫について交流するとともに、10年後の自分への手紙を書き、作品の裏に貼る。
評価規準		①色や形、構成、材料や用具、表現方法の特徴を理解し、自分の表現意図に応じて適切に選択または、活用しながら自分らしい表現をしている。【知識・技能】 ②今の自分らしさや大切にしている思いを基に発想あるいは構想し、伝えたい内容に応じてモチーフや画材・技法などを工夫しながら表現を深めている。【思考・判断・表現】 ③自分の表現をよりよくしようと主体的に試行錯誤するとともに、キュレーター活動で得た考えを生かしながら、最後まで粘り強く制作に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（6／10時）

目 標	作者の表現意図を基に作品を鑑賞し、思いがより伝わる表現について対話を通して考え、自分の表現意図に応じて作品の見方や感じ方を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（b）】多様な表現を認め合いながら作品を深めることができるように、「①作品の第一印象」「②その思いが伝わる表現」「③より思いが伝わるための工夫」の3つの視点を基に対話するキュレーター活動を設定する。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (5)	1 前時までの活動を振り返る。（3） ・前向きさを出すための背景は何がいいかな ・めりはりのある大人をどう表現しようかな ・どこに貼ったらより華やかになるかな	・活動の見通しがもてるよう、前時までの制作でうまくいっていることや困っていること、表したい自分が表現できているかなど、生徒たちの振り返りを例に出しながら問いかける。
	2 学習課題をつかむ。（2） 自分の思いがより伝わる作品にするには、どうしたらよいだろうか	
展 開 (40)	3 グループの友達の作品を鑑賞する。（12） ・作者は作品の題名を伝え提示し、言葉で作品を説明しない。作者以外の生徒はキュレーター役となり、作品全体の印象やどこからそう感じたか、作者に聞きたいこと、より思いが伝わるための工夫を考えカードに記入する。 ・赤が目立つから優しさより強そう。ピンクにしたらどうかな？ ・身体の大きさから思いは伝わってくるなあ。 ・裸足の方が自分で立っている感じがする。 ・なぜ背景はぼかしたのかな。	★造形的な視点から具体的に作品を鑑賞できるよう、身体の高さや配置、大きさ、背景、色、モダンテクニックなど、未来の自分がどんな姿でありたいと作者が願っているのかを考えるように促す。また、鑑賞ポイントを黒板に提示する。 ・活動に困っている場合は、「身体の高さからどんな感じがするか」「この色を選んだ作者はどんな思いか」など具体的に問いかける。 ・グループ全員の作品を鑑賞できるよう、時間配分に留意する。
	4 キュレーターの見方を作者に伝え、作者は必要に応じて制作意図を説明する。（5） ・少し淡い色を使うとやさしさが伝わると思う。 ・ドロッピングの方が強い感じが出るのでは。	
	5 キュレーターから受け取った意見を基に、自分の作品を改めて見つめ、今後どのように表現していくか考え、制作を進める。（23）	
整 理 ・ 発 展 (5)	6 本時の活動を振り返り、自分の思いをより伝えるために大切だと気付いたことを発表し、本時の学びを整理する。（2） 伝えたい思いに合わせて、表現を工夫することが必要である	・どんな工夫をすれば思いがより伝わると感じたかを問い、「伝えたい思い」と「表現の工夫」の関係に着目して整理する。
	7 クリエイティブチャットに取り組む。（3） ・技法を多く使えばいいわけじゃないね。 ・全部友達の意見に合わせるのではなく、自分の思いに合うものを選べばいいと思った。 ・思いが伝わっていてうれしかった。	
評 価	キュレーター活動を通して得た他者の見方を参考に、自分の表したいことと表現方法との関係を考え、構想を深めている。 【思考・判断・表現】	

器械運動「跳び箱運動（回転系）」

令和8年10月7日（水） 体育館 授業者 中野 翔太

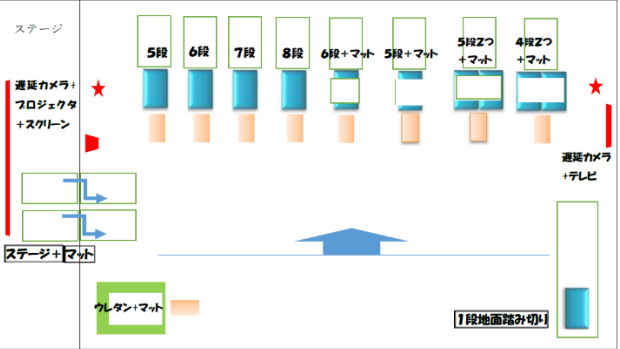
1 学習指導概要

子供観	本学級の生徒（男子17名、女子20名、合計37名）は、男女問わず関わりが多くあり、目的意識をもって活動に取り組むことができる。その半面、自己有用感が低く、自ら目標や目的意識をもって取り組むことができない生徒もいる。 1学期に実践した器械運動「マット運動」の学習では、仲間と関わり合いながら問題解決に向けて粘り強く取り組む姿が多く見られた。しかし、恐怖感や失敗経験のある生徒の学びが停滞してしまったことや、技能差のある生徒間の関わりが少なかったことが課題となった。 そこで、本単元の学習では、自他の問題解決に向けて、他者と高め合いながら、習得した知識や経験を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指す。そして、自己の考えを再構築したり、より妥当な解決策を見いだしたりして、新たな価値を創造していく生徒の姿を期待する。その中で、跳び箱運動の特性に触れる面白さや達成感を味わわせたい。
教材観	跳び箱運動は、「助走」「踏切」「踏切から着手までの第一空中局面」「着手から着地までの第二空中局面」「着地」の5つの過程から構成される。中でも、回転系の技、主に首はね跳びや頭はね跳び、前方屈腕倒立回転跳び、前方倒立回転跳びの特性である、前方への回転動作（第二空中局面）によって生まれる非日常的な身体感覚や浮遊感を味わうことに面白さがあると考ええる。 本単元では、技の終末であり、特性であると考える前方への回転動作（第二空中局面）から安定した着地をする動き方に焦点を当てて学習を行う。助走、踏切、第一空中局面、着手での突き放しの各局面の役割や相互のつながりを理解するとともに、解決への見通しや逆算した考えをもつことで、前方への大きな回転動作（第二空中局面）の習得に向けた一つ一つの問題を段階的に解決していく「問題解決型の学習」ができるようになる。 これらの特性を生かし、着手後も前方に回転するための勢いを生み出す動き方や、突き放しによって大きく空中に飛び出して着地をする動き方を身に付け、技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すといった基本技能の習得を目指す。そして、跳び箱運動の特性に触れる楽しさや、試行錯誤しながらより妥当な方法を選択して問題解決を目指す中で生まれる達成感を体感してほしいと考える。
指導観	本単元では、生徒が自ら問題を発見し、他に支えられていることを自覚して他者と高め合いながら、合理的な解決に向けて粘り強く学び続けようとする姿を目指したい。そのために、工夫された場で多様な運動経験をし、自他の考えを表出し合って学びの成果を自覚できる支援をしていくようにする。 単元を通して、運動技能に応じた練習の場を選択して繰り返し試技を行う中で、特性に迫る自己の問題を発見できるようにする。また、問題解決に向けた仮説を生徒自らが立てた上で活動するよう促すことで、課題の修正を図りながらより妥当な解決策を見いだそうと粘り強く取り組むことができるようにする。 展開では、示範演技の連続写真に、動きへの疑問点や気づき、それに対する助言を書き込める「アナログチャット」を活用することで、助走や踏切、各空中局面での動作、着手の視点から、問題の解決に必要な動きについて考えることができるようにする。また、動きを客観視し、分析をするために動画を活用することで、解決に向けて対話的に学び合い、自己の考えを深められるようにする。さらに、学習支援クラウド（スクールタクト）を活用することで、学習を通して「何が分かったか」「何が変わったか」を明確に分析し、根拠をもって学びの成果を自覚できるようにする。 これらの活動を通して、自ら課題を発見し、体育の見方・考え方を働かせながら、合理的な解決を目指し、跳び箱運動の特性を理解するとともに、領域のもつ面白さを味わうことができる生徒を育成したい。

2 単元計画（8時間完了）

目 標		(1) 着手後も前方に回転するための勢いを生み出す動き方や、突き放しによって大きく空中に飛び出して着地をする動き方を身に付け、技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。 【知識及び技能】 (2) 技についての自他の問題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫しながらより妥当な解決方法を見つけ、自己の考えを他者に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (3) 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしながら、自己の能力に適した問題を解決しようと粘り強く取り組もうとする。 【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	雄大な回転と安定した着地をするために必要なことは何だろうか	○回転系の技の特徴を理解した上で、自分の運動技能に応じた練習の場を選択して繰り返し試技を行う中で、自己の課題を発見する。
展 開	2	どうすれば第二空中局面の回転につながる勢いを付けることができるだろうか	○回転に勢いを付けるために必要なことや体の使い方について、助走や踏切、各空中局面での動作、着手の視点から考える。
	3	2つの回転の大きさを比較して跳躍したとき、どのような感覚の違いがあるだろうか	○第一空中局面と第二空中局面の大小の組み合わせを試し、回転中の感覚を比較することで、回転系の特性である第二空中局面の面白さを味わうことに迫る考えをもつ。
	4	どのような着手が、第二空中局面の回転へ勢いをつなぐために有効だろうか	○自他の試技を客観視する中で、助走や踏切で付けた勢いを、着手時の「跳ね動作」につなげるために必要な第一空中局面での回転の仕方や突き放しの仕方について追究する。
	5	どうすれば、第二空中局面の回転を大きくして、安定した着地をすることができるだろうか	○これまでの学習で深めた各局面の役割や相互のつながりから自己の課題を発見し、自他の動きの変容や示範演技との動きの違いを分析しながら問題解決に向けて取り組む。
	6 本 時	どうすれば、第二空中局面の回転をより大きくして、安定した着地をすることができるだろうか①	○自他の動きの変容や示範演技との動きの違いを分析しながら、根拠をもって問題解決に向けて取り組む中で、回転時の上方向と奥方向へのベクトルをより大きくするために必要な動きやエネルギーの作り方について追究する。
	7	どうすれば、第二空中局面の回転をより大きくして、安定した着地をすることができるだろうか②	
終 末	8	どうすれば、第二空中局面の回転をより大きくして、安定した着地をすることができるだろうか③	○学習前半と後半の自分の動きの変容を分析し、第二空中局面の大きさが変わった要因について、根拠をもって成果を評価する。
評価規準		①助走の勢いを生かして着手し、着手後も前方へ回転するための動きを行うとともに、突き放しによって身体を空中に投げ出し、着地まで必要な動きを身に付け、一連の動きをつなげて跳び越している。 【知識・技能】 ②技について、出来栄えや動きのつまずきから問題を見付け、解決に向けて、動きのポイントや練習方法を考えたり実際の動きを振り返って取り組み方を工夫したりするとともに、よりよい解決方法について自己の考えを他者に伝えている。 【思考・判断・表現】 ③自己の能力に応じた課題を設定し、仲間の課題や一人一人の違いを大切にしながら、問題の解決に向けて練習方法を選択して粘り強く取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（6／8時）

目 標	第二空中局面での回転をより大きくし、安定した着地をするために必要な各局面の体の使い方や、一連の動きを身に付けることができる。 【知識・技能】	
手だて	【手だてⅡ（b）】自己の動きの変容や示範演技との動きの違いを分析し、回転をより大きくするために必要な動きについて追究できるように、動画やアプリ（VideoDelaryFree）の遅延再生機能を活用するよう働きかける。 【手だてⅡ（b）】自他の問題を共有し、解決に向けた思考の表出を手助けするために、動きに対する疑問点や気づき、それに対する助言を書き込めるアナログチャットを活用するよう働きかける。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (7)	1 準備運動・補強運動を行う。（5） 【支持補強系】 補助倒立、カエルの脚打ち、突き放し動作 【跳ね動作補強系】 跳ね起き、前方倒立回転練習（マット）、跳ね動作練習（ステージ、一段跳び箱） 【踏切・腰上げ補強】ロイター板踏切練習 2 学習課題をつかむ。（2）	- 健康観察とともにけが防止のための服装や安全について確認する。 - 追究課題の達成に向けた技能を高めるために、各局面の動きとのつながりを意識して「スキルアップドリル」に取り組むよう伝える。 「回転時の上・奥方向へのベクトルをより大きくするポイントを、回転中の体の使い方やそれまでの各局面の動きから見付けられないか」と発問して、学習課題を提示する。
	どうすれば、第二空中局面の回転をより大きくして、安定した着地をすることができるだろうか	
展 開 (33)	3 自己の追究課題と仮説の設定を行う。（3） - 両脚を揃えてかかとを大きく振り上げたら大きくなるかな。腰を開くタイミングも追究したい。 - 突き放しをもう少し遅くすれば、前方向への回転の大きさが変わらないかな。目線も意識したいな。 4 自分の問題解決を図るための場を選択し、練習する。（28）  - 突き放すと同時に腰を開き始めると遠くに脚を投げ出せるようになってきた。もう少し膝を伸ばして、一気に腰を開くといいかも。 - 着手の位置を前に見て、手を前方に出して突き放すようにすれば、前方への勢いを上方向へ回転するエネルギーに変えられて、第二空中局面が大きくなってきた。 5 より大きな第二空中局面につながる動きのポイントについてまとめ、自己評価する。（2）	- 自ら目標をもち、達成に向けて粘り強く取り組むことができるように、前時の試技の動画や分析結果を確認するよう働きかけ、本時の追究課題とその達成方法についての考えを具体的にもつように伝える。 - 第二空中局面の回転をより大きくする仕方について自分なりの考えを構築できるよう、視点をキーワード化して伝える。 ★助走や踏切で付けた勢いを、着手時の「跳ね動作」につなげるために必要な突き放しの仕方や各空中局面の回転動作について追究できるように、アプリの遅延再生機能を活用するよう働きかける。 - 解決に向けた視点を明確にして学び合うことができるように、示範演技の連続写真を示す。 ★解決に向けた思考を共有し、思考の表出ができるようにするために、動きに対する疑問点や気づき、それに対する助言を付箋に書く「アナログチャット」を活用するよう働きかける。 - 学びが停滞したときには、視点を再確認したり、新たな課題を得たりできるように、追発問をする。また、必要に応じて全体共有を行う。 - 本時の学びを整理した上で個の振り返りを行うことができるように、試技の動画やアナログチャットを振り返るよう促す。

整理・発展 (10)	6 本時の学びを整理する。(5)	・二つ目の回転をより大きくする仕方について自己の変容を自覚できるように、「何が変わったか」「何で変わったか」を、学習カードに記入する場を設ける。
	1つ目の回転は助走と踏切の勢いをつなぐために鋭く前方へ回って奥に着手し、突き放しと同じタイミングで腰を一気に開き、かかとを遠くの方に投げ出すと2つ目の回転が大きくなる	
	7 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・第二空中局面が大きくなってふわっとした感覚が増えた。ジェットコースターも大きい方がふわっとした感覚が大きいもんね。 ・目標から逆算して解決方法を考え、試行錯誤しながら改善していく力は、受験勉強にも生かせそうだな。	・「今日学んだことを他のスポーツや生活にどう生かせるかな」と発問する。 ・話し合いをしている場面で、自分の考えを積極的に発言した生徒を称賛する。 ・学習のつながりや日常生活との関わりに着目している生徒の発言を取り上げ、全体に問う。
評価	突き放した後に腰を高く保つ、体を伸ばしながら前方へ移動するなどの動きを行い、第二空中局面をより大きくして安定した着地をすることができる。 【知識・技能】	

マイクロビットで広げる豊かな生活

令和8年10月7日（水） パソコン室 授業者 飯田 将太

1 学習指導概要

子供観	本学級の生徒は、日常生活の中でスマートフォンや家電製品などプログラムによって制御されたさまざまな製品やサービスを利用している。多くの生徒が情報技術を身近なものとして捉えている一方で、それらを「使う側」として接することが多く、情報技術を活用して自分や身近な人の生活をよりよくしようとする視点は十分に育っていない。また、自分なりの考えをもって、課題に対して主体的に取り組むことはできるものの、作品を完成させることを目標として掲げ、完成後に利用者の立場から見直したり、他者の意見を取り入れて改善したりする経験は少ない。さらに、友達と考えを交流する場面では、自分の考えを伝えることはできても、他者の考えのよさを取り入れたり、協働してよりよい解決策を生み出したりすることに課題が見られる。一方で、身近な生活に関わる課題や、自分や家族のために役立つものをつくる活動には関心を示す生徒が多い。そこで、身近な生活を見つめ直し、「誰のために、どのような生活をよりよくしたいのか」という視点をもつことができれば、生徒自身が課題を見だし、目的をもってプログラムを構想したり制作したりすることができると考える。また、試作品を実際に動かし、友達や利用者の視点から評価や改善をする活動を繰り返すことで、自分の考えを見直し、多様な考えを生かしながらよりよい解決策を追究する姿を育てたい。
教材観	本単元では、マイクロビットを活用し、「自分や家族など身近な人の生活をよりよくするプログラム」を開発する問題解決学習を設定する。マイクロビットは、センサによる計測やLED、ボタン、音などを組み合わせたプログラムを比較的容易に制作できるため、プログラミングの知識や技能だけでなく、生活や社会の中から問題を見だし、技術を用いて解決する過程を学ぶ教材として適している。そのため、マイクロビットを単にプログラムを作成するための教材として扱うのではなく、「誰のために」、「何をよりよくしたいのか」という生活とのつながりを重視する。例えば、家族の生活における困りごとや学校生活の不便さに目を向け、それを解決するためにどのような機能が必要なのかを考えることで、プログラムが生活を支える技術の一つであることを実感できるようにする。また、本教材では、構想、試作、評価、改善の過程を重視する。アイデアスケッチや設計図によって自分の考えを可視化し、実際に試作品を制作した後、「使いやすいか」、「目的を達成できているか」、「利用者にとって本当に役立つか」という視点から評価する。さらに、評価を基に二度の改善を行うことで、完成そのものを目的とするのではなく、利用者の立場から課題を捉え直し、よりよい解決策を生み出していくことの大切さを学ぶことができる。このように、マイクロビットを用いて、「生活の中の問題について解決策を構想する→制作する→評価する→改善する」というPDCA型の問題解決の過程を経験することは、技術を活用してよりよい生活や持続可能な社会を構築しようとする資質・能力を育成する上で有効な教材であると考ええる。
指導観	本単元を指導するにあたり、生徒がプログラムを「作ること」だけを目的とするのではなく、「技術を活用して誰の生活をどのようによりよくするのか」という目的を明確にもって学習に取り組めるようにする。 そのため、単元の導入段階では、生活を豊かにするマイクロビットの活用例や実際の社会で活用されている情報技術を提示した上で、マイクロビットの基礎的なプログラミングを体験する。その中で、「自分にも作れそうだ」「こんなものがあったら便利だ」「家族のために作ってみたい」といった疑問や願い、憧れを引き出す。

展開段階の課題設定の場面では、自分や家族との関わりと、家庭生活や学校生活など身近な生活を振り返り、困っていることや不便に感じていることを意見交流する活動を取り入れる。その際、「誰のために」、「どのような困りごとを解決したいのか」を明確にすることで、生徒自身が必要感をもって課題を設定できるようにする。構想の場面では、アイデアスケッチや設計図を用いてプログラムの働きや処理の流れを可視化するとともに、自分の考えを友達に説明する活動を設定する。互いのアイデアを交流することで、自分では気付かなかった視点を得たり、友達の考えのよさを取り入れたりしながら、解決策を具体化できるようにする。制作後は、試作品を実際に動かして評価するだけでなく、利用者の視点を取り入れた評価や改善の場を設定する。「使いやすいか」、「目的を達成できているか」、「利用者にとって役立つか」、「もっとよくするためにはどうすればよいか」といった視点を示し、「計画→試作→評価→改善」のPDCAサイクルを二度繰り返す。これにより、最初のアイデアに固執するのではなく、他者から得た意見や実際に使用して出た問題を捉え直し、よりよい解決策を追究する姿を育てる。また、学習の各場面では、教師が生徒の考えを一方的に修正するのではなく、「なぜこの工夫をしたのか」、「誰のための工夫なのか」、「この改善によって生活はどのように変わるのか」と問い返すことで、生徒自身が学びを整理し、技術を工夫したり創造したりすることの価値に気付けるよう支援する。

終末段階の発表の場では、単に作品の機能を紹介するだけでなく、「課題」、「工夫」、「改善」、「生活への効果」のつながりを説明するよう促すことで、問題解決の過程そのものを振り返ることができるようにする。こうした一連の学習過程を通して、生徒が「作って終わり」ではなく、利用者の立場や他者の意見を取り入れながら改善を重ねることの大切さを実感し、技術を活用して自分や身近な人の生活、さらには社会をよりよくしていこうとする態度を育てたい。

2 単元計画（8時間完了）

目 標		(1)生活の中で利用されている情報の技術について理解するとともに、センサやアクチュエータの働きを理解し、目的に応じてプログラムを制作することができる。【知識及び技能】 (2)生活における課題を設定し、利用者の立場や使用する場面を踏まえてプログラムを試作し、評価して改善する活動を通してよりよい解決策を考え、適切に表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3)情報の技術が生活や社会の問題解決に果たしている役割を理解し、よりよい生活の実現に向けて、主体的にプログラムの開発や改善に取り組もうとするとともに、他者と協働して作品を評価したり改善したりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	マイクロビットはどのようなことができるのだろうか	○ブロック型のプログラミングを行い、マイクロビットでできることを試す。
	2	センサを利用するとどのようなことができるのだろうか	○マイクロビットのセンサを利用してできることを試す。
展 開	3	マイクロビットを利用して人々の生活を豊かにするためには、どうすればよいだろうか	○マイクロビットを利用して自分や家族など人の生活をより豊かにする方法を考える。
	4・5・6	マイクロビットを利用して人々の生活をより豊かにするためには、どのようなことに気を付けてプログラミングをすればよいだろうか	○前時で考えた生活をより豊かにする方法についてプログラミングを行う。 ○制作したプログラムを実際に利用し、バグがあればデバッグを行う。 ○マイクロビットが適切に機能しているかをチームの仲間に確認してもらい、よりよいものにするための改善点を考える。
	7 本時	対象者を意識した動きにするためには、どのようにプログラムを工夫すればよいだろうか	○誰を対象としてプログラミングを行っているかを確認し、デバッグを行う。
	8	さらに生活を豊かにするためには、どのようにしたらよいだろうか	○完成したプログラムを発表し合い、生活をより豊かにする方法を考える。
評価規準		①センサから取得した情報に応じて機器を制御するプログラムを制作し、動作確認や修正を行いながら目的とする動きを実現している。【知識・技能】 ②利用者や利用場面を踏まえて問題解決の方法を構想し、試作や評価の結果を基にプログラムやシステムを改善している。【思考・判断・表現】 ③豊かな生活の実現を目指し、他者と協働しながら粘り強く設計や制作、評価、改善に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（7／8時）

目 標	前時までに制作したプログラムを対象者にとって利用しやすく役に立つかどうか評価し、より利用しやすくなるように改善することができる。【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（b）】本時の学習課題から対象者を意識したプログラムとなるように、「誰のため」のプログラムなのか確認し、個人目標を立ててプログラムの改善を行うように促す。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (5)	1 前時で出たプログラムの課題と本時における改善点を代表生徒が語る。（3） ・僕は「祖母」が熱中症にならないようにしたい。危険を知らせるだけでなく、水分補給を促す音楽のプログラムを取り入れ、改善をしたい。	・多くの生徒の参考となるよう、代表生徒が語った課題とそのための改善点を板書する。 ・プログラムを利用する対象者を明確になるように、強調して板書する。
	2 学習課題をつかむ。（2） 対象者を意識した動きにするためには、どのようにプログラムを工夫すればよいだろうか	

展開 (35)	3 前時の課題と改善点から本時の個人目標を立てる。(5) ・祖母が水分補給することに気付けるように、音楽とLED表示のプログラムを付け加える。 ・父が多くウォーキングしたことが母に伝わるように、目標歩数に到達したら無線で母に通知が送られるようにプログラムを付け加える。 4 個人目標を基にプログラムの改善を行う。(10)  5 改善したプログラムをチームの仲間に実際に利用してもらい、評価をし合う。(10) ・祖母が水分補給したら、ボタンを押すようにして、自分に通知が来るようにしてはどうか。 ・父の目標歩数をいくつかの段階に分けて作ってあげたらどうか。 6 仲間の評価を基に、再度プログラムの改善を行う。(10)	・円滑に活動できるように、個人目標の文型を提示する。 ・個人目標を立てられない生徒に対し、改善のためのヒントカードを提示する。 ★対象者を意識した個人目標をもてるよう、「誰のため」のプログラムなのかを確認するように促す。 ・考えた記録を後に振り返ることができるように、プログラムを改善した部分は設計図に書き残すように促す。 ・机間指導を行い、プログラムの改善を意欲的にできている生徒を称賛したり、困り感のある生徒に対してプログラム例を提示したりする。 ・適切な評価をすることができるように、「使いやすさ」「生活が豊かになるか」など評価の視点を提示する。 ・再度の改善ができるように、評価をそれぞれ付箋に書き、仲間の設計図に貼るように促す。 ・仲間が書いたアドバイスの付箋を基に、再度プログラムの改善を行うように促す。
整理 ・ 発展 (10)	7 本時の学びを整理する。(5) ・LED表示だけでは心配だったので、自分が確認できるようなプログラムを入れることで安心して使えるプログラムができた。 対象者の年齢や性別など特徴に合わせてプログラムを工夫する必要がある 8 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・対象者が誰かによって同じ動作でも少しずつプログラムを変えていく必要があり、利用者を考えて世の中の機械は動いていると思うとすごい。 ・改善した内容をさらに評価してもらうことで、より対象者が使いやすくなるプログラムを考案することができ、見てもらうことっていいことだと思った。	・生徒それぞれが整理できるよう、個人目標に対する個人整理ができる場を設定し、設計図に記述するように促す。 ・キーワードを見つけられるよう、個人で整理したことを数名指名し、全体で共有する。 ・自分の学びと向き合い、価値付けを行うことができるよう、考えを伝え合う時間を設ける。 ・学ぶ意義や価値の実感を深め、学級全体で考えを膨らませられるように、発言内容を学級全体へ投げかける。 ・学習のつながりや日常生活との関わりに着目している生徒の発言を取り上げ、全体に問う。
評価	対象者の立場や利用場面を踏まえて制作したプログラムの利便性や有用性を評価し、評価を基に課題を見いだすとともに、より利用しやすく役立つものにするための改善方法を考えることができたか。 【思考・判断・表現】	

自立した消費者を目指して

令和8年10月7日（水） 2年5組教室 授業者 山口 諒

1 学習指導概要

子供観	生徒は、スマートフォンやSNS、動画配信サービス、オンラインゲーム、ネット通販などに日常的に触れ、商品やサービスに関する多くの情報を手軽に得ている。口コミや広告、友人、インフルエンサー等の発信を参考にしながら、好みや必要に応じて商品を選ぶとする姿が見られる。一方で、表示された価格や見た目の印象、周囲の評価に影響されやすく、広告の意図、契約条件、必要性や安全性まで確かめて判断することには課題がある。近年は、インターネットゲームに関する相談に加え、年齢が上がるにつれて衣類や化粧品、健康食品等のネット通販に関するトラブルが増えており、未成年の相談における既払額も高額化している。また、SNSを入口とした広告や勧誘、個人間取引など、消費者が情報の真偽や取引条件を自ら見極める必要がある場面も増えている。 2022年には成年年齢も引き下げられ、近い将来、生徒には消費者として自ら契約し、生活を営む主体となる時期が訪れる。そのため、身近な消費行動を題材に、情報を比較したり吟味したりし、商品やサービスの必要性や価格、品質、契約条件、環境や社会への影響などを根拠に判断する力を育てたい。また、トラブルに遭った際には一人で抱え込まず、家族や相談機関に相談するなど、適切に行動しようとする態度も養いたい。
教材観	本単元では、消費者としてよりよい選択をするために必要な知識と判断力を育てる。商品選択や売買契約などの広告やSNSの情報、支払い方法、消費者被害、消費者の権利と責任、消費行動が社会や環境に及ぼす影響を、相互に関連付けて学習する構成となっている。消費生活における選択では、必要性や価格、品質、安全性、契約条件、支払い方法などを踏まえ、得られた情報を吟味して判断することが求められる。また、商品情報に関わる広告やSNSには、商品やサービスを魅力的に伝えるための表現が用いられており、その意図や信頼性を考える視点も必要である。具体的な広告や契約トラブルの事例、支払い方法の比較を扱うことで、消費生活の仕組みや、消費者として注意すべき点を具体的に理解することができる。さらに、消費者被害への対処、消費者の権利と責任を学ぶことは、消費者が保護される存在であると同時に、自らの選択に責任をもつ主体であることを捉えることにつながる。 また、衣食住に関する既習事項と環境への配慮を結び付けて消費行動を捉えることで、価格や利便性だけでなく、人や社会、環境への影響も考慮する消費の在り方について考えることができる。消費生活を自分の生活と社会をつなぐ営みとして捉え、自分なりの根拠をもって選択、行動しようとする態度を育みたい。
指導観	生徒が日常的に接しているスマートフォンやSNS、ネット通販等に関わる具体的な場面を取り上げ、消費生活を自分のこととして捉えられるようにする。その上で、広告や口コミの印象だけで判断するのではなく、必要性、価格、品質、安全性、契約条件、支払い方法、情報の信頼性など、複数の視点から情報を比較したり吟味したりする場を設定する。消費者被害の事例については、被害の原因や問題点を考えるとともに、困った際には家族や消費生活相談窓口等に相談するという具体的な行動につなげる。商品選択、売買契約、広告やSNS、支払い方法、消費者被害、消費者の権利と責任についての学習を、個別の知識にとどめず、相互に結び付けて活用できるようにする。広告の分析、契約トラブルの検討、支払い方法の比較などでは、「なぜそのように考えるのか」を明らかにし、判断の根拠を言葉で表すことを大切にする。また、衣食住における既習事項や環境への配慮とも関連付け、価格や利便性だけでなく、人や社会、環境への影響を考慮して選択する視点をもつことができるようにする。

	単元での学びを踏まえ、「自立した消費者」「賢い消費者」とはどのような消費者かをテーマに、具体的な消費場面を想起しながら対話する場を設定する。自分の考えを理由とともに伝え、友達の考えとの共通点や相違点を捉えることで、消費者として大切にしたい視点を多面的に捉えられるようにする。さらに、交流を通して考えを見直したり深めたりした上で、今後の自分の消費行動で意識したいことを明確にする振り返りを行う。このようにして、情報を根拠に判断し、自らの選択と行動に責任をもとうとする生徒の育成を目指す。
--	---

2 単元計画（8時間完了）

目 標		(1) 商品やサービスの選択や支払い方法、消費者の権利と責任について理解するとともに、消費生活に関する情報を適切に収集、整理することができる。【知識及び技能】 (2) 自分や家族の消費生活における課題を見だし、必要性、価格、品質、環境や社会への影響などを踏まえて、よりよい消費行動について考え、工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) よりよい消費生活の実現に向けて、消費生活について問題解決に主体的に取り組み、自らの消費行動を振り返って改善しようとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	商品を選択するときには、どのようなことに注意するとよいだろうか	○一人暮らしを想定した一か月の家計簿を収支のバランスに着目して作成する。
	2	売買契約はどのように成り立っているのだろうか	○売買契約のトラブル事例を見て、対策方法を考える。
展 開	3	広告やSNSの情報は商品の選択とどのように関わっているのだろうか	○インターネット広告を見て、どのように消費者をひきつけているのかを分析する。
	4	支払い方法にはどのような種類があるのだろうか	○クレジットにおける三つの支払い方法、すなわち「一括」「分割」「リボ」について、実際に計算をしながら比較する。
	5	どうすれば消費者被害を防ぐことができるだろうか	○悪質商法に関する動画を視聴し、消費者被害の対策を考える。
	6	消費者の権利と責任には、どのようなものがあるのだろうか	○八つの権利と五つの責任について、自分の生活から具体例を挙げる。
	7 本時	賢い消費者とは何を優先する人なのか	○自分が選択した消費行動を明確にして、チームや学級全体でディスカッションする。
終 末	8	私たちの消費行動は、社会にどのような影響を与えているのだろうか	○衣食住の各分野で学んだ環境への配慮をもとに、自分の消費行動を振り返る。
評価規準		①商品やサービスを選択する際に必要な視点や支払い方法の特徴、消費者の権利と責任について、資料や事例から得た情報を基に理解している。【知識・技能】 ②広告やSNS、契約トラブル等の具体的な事例から必要な情報を取り出し、複数の視点で比較したり吟味したりしている。また、自らの消費行動の根拠を明らかにして表現したり、他者に伝えたりしている。【思考・判断・表現】 ③自分の消費行動を振り返り、商品やサービスの選択が自分や社会、環境に及ぼす影響を考え、今後の消費行動をよりよくしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（7／8時）

目 標	商品を購入するときに必要な情報や状況を考慮し、賢い消費者とはどのような人かを自分なりの言葉で説明し、それに見合う消費行動を選択することができる。【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（a）】 学習課題を自分のこととして捉え、問題解決の意欲を引き出すために、中学生を主人公としたマンガを提示する。 【手立てⅡ（b）】 より多くの意見を取り入れて自分の消費行動とその理由を整理することができるように、チームでディスカッションする場を設ける。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (10)	1 本時の導入を図る。(8) 【マンガの概要】 中学2年生の主人公は月々5000円の小遣いをもらっている。今月の小遣いをもらい、部活動に必要な靴を買うか、趣味で欲しいものを買うか悩んでいる。どちらも5000円程するため、二つ買うことはできない。ふと、小遣いをもらったときに「賢く使いなさい」と言われたことを思い出す。	★学習課題を自分のこととして捉え、問題解決の意欲を引き出すために、中学生を主人公としたマンガを提示する。 ・問題点が明確になるよう、マンガの最後のページを提示し、「主人公は何に悩んでいるのか」と発問して、問題点が明確になるよう、主人公が悩んでいる点を押さえてから学習課題を提示する。
	2 学習課題をつかむ。(2) 賢い消費者とは何を優先する人なのか	
展 開 (30)	3 個人で自分の考えをまとめる。(5) 4 自分の消費行動を明確にしてチームでディスカッションを行う。(5) ・欲しいものは我慢して今度購入すればいいから必要なものを優先したい。 ・いずれ必要になるならば今買っておいた方がよいと思うから、必要なものを買う。 ・限定品で今後手に入らないかも。買わなかったことを後悔しそうだから欲しいものを買う。 5 追加された情報を基に消費行動を見つめ直し、チームでディスカッションする。(12) ・ボロボロだけど、まだ使えるなら欲しいものを優先して買いたい。 ・大事な試合の時に壊れて使えなくなってしまうと困るから、必要なものを買っておきたいな。 ・旅行へ行くならお金を貯めておきたいから、どちらも買うのはやめておこうかな。 ・再販は可能性があるだけだから、やっぱり欲しいものを買っておいた方がいいな。 ・中古で安いものを買えば、旅行のために少しは貯金することができるな。 6 学級全体で意見を共有する。(8)	・自分の考えをもてるよう、消費行動と選んだ理由をプリントに書く時間を設ける。 ★より多くの意見を取り入れて自分の消費行動とその理由を整理することができるように、チームでディスカッションする場を設ける。 ・机間支援でディスカッションの様子を見取り、円滑に話が進んでいないチームには声をかけ、論点のヒントを伝える。 ・生徒の思考を揺さぶり、より根拠をもって消費行動を示すことができるように、購入する商品の情報や主人公が置かれている状況などを追加情報として2回に分けて提示する。
		追加する情報例 ・靴はぼろぼろだがまだ使用できる ・来週、大事な大会がある ・限定品だが再販の可能性もある ・友達と一緒に買おうと誘われた ・12月、友人と旅行へ行くことになった ・中古で安い靴を手に入れることもできる ・机間支援で把握した生徒の考えを踏まえ、全体の意見が深まると考えた生徒を意図的に指名する。

整 理 ・ 発 展 (10)	7 本時の学びを整理する。(5) ・自分なりの言葉で「賢い消費者とは〇〇する人」の空欄に当てはまる言葉を考え、プリントへ記入する。	・「賢い消費者とは〇〇する人」と板書し、空欄に当てはまる言葉を考え、そのように考えた理由とともにプリントに記入するよう伝える。
	商品を購入するときには自らの経済状況だけでなく、さまざまな指標を基に必要なかを判断することが重要である	
	8 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・お小遣いをもらおうといつもすぐに使ってしまうから、計画的に使う練習をしていきたいな。 ・親からどうしても欲しいものがあるなら、一週間我慢してみて、それでも欲しかったら買うといいって言われたよ。 ・今は貯めるだけでは自分の資産を守っていけないから、将来は投資もしていきたいな。	・自分の学びと向き合い、価値付けを行うことができるよう、「今日学んだことを実生活やこれまでの経験とつなげて考えてみよう」と発問し、チームで考えを伝え合う場を設ける。 ・伝え合う場を学級全体へと移行し、学ぶ意義や価値の実感を深めることができるように、生徒同士の創造性をつなげる。
評 価	ディスカッションを通して自らの意見を整理した上で、根拠をもって自らの消費行動を示すことができたか。 【思考・判断・表現】	

第2学年1組 英語科学習指導案

Welcome to Japan! ～異文化を理解し、お互いに気持ちよく過ごすために～

令和8年10月7日（水） 武道場 授業者 T1山本 悠司 T2佐々木 みゆき

1 学習指導概要

子供観	本学級の生徒は、英語に対して苦手意識をもつ生徒が多い。7月に行ったアンケートでは、英語を聞き取ることや話すこと、英文を書くことなど、英語を用いて表現することに難しさを感じている生徒が多く見られた。また、外国や異文化に興味をもてないと回答した生徒も13名おり、異なる文化や考え方に触れることへの関心も十分とはいえない。一方で、外国人と話したい、海外で英語を使って会話をしたいと考える生徒もあり、実際に英語を使って人と関わることへの期待をもつ生徒も見られる。
教材観	新出表現として義務や必要性を表す have to や must などの表現を扱う。これらは、家庭や学校、地域、公共の場におけるルールや習慣を伝える際に用いることができ、実際のコミュニケーション場面と結び付けやすい言語材料である。 本単元では、「初めて来日する外国人と、お互いに気持ちよく過ごすためにはどうすればよいのだろうか」という課題の下、日本と外国の文化や生活習慣の違いを題材として扱う。日本では当たり前と考えられている習慣や価値観も、異なる文化的背景をもつ相手にとっては必ずしも当たり前ではない。そのため、日本と外国の文化や生活習慣を比較したり、異なる文化的背景をもつ人の経験に触れたりすることは、自分たちの生活を異なる視点から捉え直すことができる。考える。 さらに、単元の終末には、初めて来日する外国人に向けた「Welcome to Japan!」リーフレットの作成を位置付ける。これは、相手にとって必要な情報について考え、「何を、なぜ、どのように伝えるか」を整理しながら、have to や must などの表現を目的や場面、状況と結び付けて活用することのできる言語活動につながると考える。
指導観	本単元では、実際の人との関わりや身近な生活場面を学習のきっかけとし、英語を使う目的や必要性を実感しながら学習を進められるようにする。 単元の導入では、岡崎市国際交流協会の方から、岡崎市で暮らす外国人の現状や、日本で生活する中で感じた困り事、文化や生活習慣の違いによる驚きなどについて話を聞く場を設定する。地域の実情や具体的な生活場面に触れることで、生徒が自分たちの生活を振り返り、「初めて日本に来る人に、どのようなことを伝えようか」という課題意識をもてるようにする。その後、自分たちが「当たり前」と考えている日本の文化や生活習慣を振り返り、外国の文化や生活習慣と比較する活動を設定する。そこで見付けた共通点や相違点を基に、日本の文化や生活上のルールについて、その理由や背景を考え、新出表現の have to や must などを用いて伝える活動へとつなげる。その際、単に英文の意味や用法を理解するだけでなく、「誰に、何を、なぜ伝えるのか」を意識して表現を選択できるようにする。 さらに、市内に勤務する10か国11名のALTとの交流の場を設定する。交流に向けて、相手の経験や文化的背景を知るために必要な質問を考え、相手の答えに反応したり、答えに応じて質問を加えたりするやり取りを事前に練習する。交流するALTの出身国・地域については、交流前時に知らせ、その国・地域の文化や生活習慣についてこれまで学習したことと関連付けながら、さらに知りたいことや確かめたいことを考えさせる。その際、国籍や出身地だけで相手の考えや経験を決めつけることがないように、調べた情報は相手を理解するための一つの手掛かりであり、実際の相手とのやり取りを通して確かめることを大切にする。ALTとの交流では、日本に来て驚いたことや困ったこと、来日前に知りたかったことなどを尋ねるとともに、自分たちがこれまで必要だと考えてきた情報について確かめる。その後、ALTから得た情報とこれまでの学習を関連付けて整理し、その国や地域から初めて来日する人にとってどのような情報が役立つのかを考える。 単元の終末では、これまでの学習やALTとの交流で得た情報を基に、担当する国や地域から初めて来日する人に向けた“Welcome to Japan!”リーフレットを作成する。作成したリーフレットを級友と読み合い、「必要な情報が選ばれているか」「理由が伝わるか」「分かりやすい英語になっているか」という視点から助言し合う場を設定し、自分の考えや表現を見直せるようにする。 単元を通して、「自分の当たり前」や調べたことだけで判断せず、実際の相手との対話を通して考えを見直し、英語で伝えようとする生徒の姿を目指したい。

2 単元計画 (10 時間完了)

目 標		(1) 義務や必要性を表す have to や must などの意味や用法を理解し、日本の文化や生活習慣について伝えたり、相手の経験について尋ねたりすることができる。【知識及び技能】 (2) 初めて来日する外国人が日本で安心して過ごすことができるように、異なる文化や生活習慣について得た情報を基に、必要な情報を選び、その理由を考えて英語で伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 異なる文化や価値観に関心をもち、文化や経験の違いを理解しようとしながら、初めて来日する外国人と互いに気持ちよく過ごすために、主体的にコミュニケーションを図ろうとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	初めて日本に来る外国人が安心して過ごすためには、どのようなことが大切なのだろうか	○岡崎市国際交流協会の方から、日本で生活する外国人が感じた困り事や文化や習慣の違いについて話を聞き、自分たちにできることを考える。
	2	私たちが「当たり前」だと思っている日本の生活には、どのような文化や習慣があるのだろうか	○家庭や学校、地域・公共の場での生活を振り返り、日本特有だと思う文化や習慣、ルールを出し合い、have to を用いて表現する。
展 開	3	日本と外国では、生活の中の「当たり前」にどのような違いがあるのだろうか	○複数の国の文化や生活習慣に関する資料を基に日本との共通点や相違点を探し、have to や don't have to を用いて伝え合う。
	4	日本の文化や習慣を相手に理解してもらうためには、何を伝えることが大切なのだろうか	○日本の文化や生活上のルールについて、その理由や背景を考え、must や mustn't などを用いて相手への伝え方を考える。
	5	異なる文化をもつ相手を理解するためには、どのようなことを知る必要があるのだろうか	○ALT たちとの交流に向けて、日本で驚いたことや困ったこと、来日前に知りたかったことなど、相手の文化や経験を知るための質問を考え、やり取りを練習する。
	6 本時	初めて日本に来る人には、どのような情報が必要なのだろうか	○出身国の異なる ALT にインタビューし、日本で驚いたことや困ったこと、事前に知りたかったことなどの情報を集める。
	7	相手の文化的背景や経験が異なると、必要とする情報はどのように変わるのだろうか	○各グループが ALT から得た情報を共有したり比較したりし、出身国や文化的背景による共通点や相違点を整理して、リーフレットに必要な情報を選択する。
	8	初めて来日する外国人に必要な情報を、どのように伝えれば、分かりやすく安心につながるのだろうか	○ALT との交流で得た情報を基に、相手に必要な内容やその理由を整理し、既習表現を活用してリーフレットを作成する。
終 末	9	相手の立場から自分たちのリーフレットを見直すと、どのような工夫ができるだろうか	○グループ同士でリーフレットを読み合い、「必要な情報か」「理由が伝わるか」「分かりやすいか」などの視点から助言し合い、内容や英語表現を改善する。
	10	異なる文化をもつ人と、お互いに気持ちよく過ごすために大切なことは何だろうか	○完成した“Welcome to Japan!”リーフレットを発表して交流し、単元を貫く課題について自分の考えをまとめ、単元前後の自分の考えの変化を振り返る。
評価規準		①have to や must などを用いて、日本の文化や生活習慣について英文で説明したり、ALT に日本での経験や文化について尋ねたりしている。【知識・技能】 ②ALT との交流や文化、生活習慣の比較で得た情報を整理・比較し、初めて来日する外国人に役立つと考えた情報を、理由を加えてリーフレットに表している。【思考・判断・表現】 ③ALT の話や級友の考えに耳を傾け、自分の予想と異なる考えも取り入れながら、質問の仕方やリーフレットの内容、英語表現を見直し、よりよいものにしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（6／10時）

目 標	担当するA L Tの出身国や地域から初めて来日する人に必要な情報について考えるために、これまでの学習を基にA L Tへ質問したり、その答えに応じて質問を加えたりしながら、A L Tの経験や出身国・地域の文化や生活習慣について情報を得て、自分たちの考えと比べることができる。 【思考力、判断力、表現力等】	
手だて	【手だてⅡ（a）】 事前に調べた諸外国の文化や習慣をもとに考えた「役立つ情報」が、「本当に必要な情報なのか」「実際はどうだったのか」と問い返し、解決したいという思いをもたせる。そして、実際に直接、外国人にインタビューできる機会として、A L Tたちとの出会いの場を設定する。	
段 階	生徒の活動（時間）	教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 (5)	1 挨拶をし、Small Talkを行う。(3) 2 前時までに考えた「初めて日本に来る人が知りたいと思うこと」を振り返る。(2) ・ごみの分別は難しいから、教えてあげた方がいいんじゃないかな。 ・でも、ごみの捨て方で本当に外国の人が困るのかな。	・A L Tとの交流につながるよう、これまで継続して使用してきた表現を確認する。 ★「必要だと思った情報を、本当にその人も必要だと思ったのか」と問い返し、実際にA L Tに確かめる必要感をもつことができるようにする。
	初めて日本に来る人には、どのような情報が必要なのだろうか	
展 開 (35)	3 初めて出会うA L Tと自己紹介をして互いのことを知った後、日本で困ったことや驚いたこと、来日前に知りたかったことを尋ねる。(20) ・□国出身の〇〇先生は、ごみの分別が難しかったんだ。理由を聞いてみよう。 ・△国出身の××先生は、電車の乗り方で困ったらしい、どんな文化の違いがあるのだろうか。	・安心してA L Tとのやり取りを始められるようにするため、既習表現を用いた自己紹介の例を示す。(T 1) ・準備した質問を順番に読むだけにならないよう、A L Tの答えに対して反応したり追加質問したりするよう促す。(T 2)
	4 グループでA L Tから得た情報について「考えていたことと同じだったこと」「違ったこと」「新しく分かったこと」の視点で整理する。(5) ・ごみについては予想通りだったけれど、電車については考えていなかった。 ・調べた文化と先生自身の経験は少し違った。 5 A L Tとの交流を通して気付いたことを学級全体で共有する。(10) ・こんなことに困っていたことではない話題が多くて驚いた。 ・国によって文化やルールが違うから、困ることも違うんじゃないかな。	・交流による考えの変化に気付けるように、「予想と違ったこと」や「話を聞いて考えが変わったこと」がないかを問う。(T 1) ・正確な情報を伝え合えるよう、A L Tから得た情報を正しく捉えられているか確認する。(T 2) ・共通する回答や異なる回答を把握できるよう、交流中に把握した生徒の気付きを基に意図的に指名する。(T 1) ・気付いたことを整理できるよう、共有した内容を板書する。(T 2)
整 理 ・ 発 展 (10)	6 本時の学びを整理する。(5) 自分たちが必要だと思っていたことと、実際にA L T（外国人）が知りたかったことには、同じところと違うところがあった	・学びを整理できるよう、『伝えたい』と思ったことと、A L Tが『知りたかった』ことは同じだったか」と発問する。(T 1)
	7 クリエイティブチャットに取り組む。(5) ・国によって文化やルールが違うから、困ることも違うんじゃないかな。 ・外国人だからこれを伝える、って決めつけない方がいいと思う。	・「他のA L Tの話も聞いてみたい」「同じことに困った人もいるかもしれない」などの発言を取り上げ、次時の学習課題へつなげる。(T 1)
評 価	A L Tから聞き取った日本での驚きや困り事、来日前に知りたかったことを、自分が事前に考えた内容と比べ、共通点や相違点をワークシートに整理することができたか。 【思考・判断・表現】	

電気の世界 ～イライラ棒で遊ぼう～

令和8年10月7日（水） 第1理科室 授業者 蜂須賀 一輝

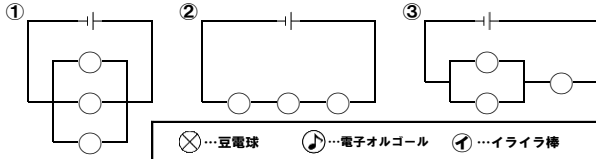
1 学習指導概要

子供観	本学級は知的障害学級で、6名の生徒が所属している。楽しさを感じたり興味を抱いたりする授業には意欲的に取り組むことができる。一方で、苦手な教科や難しさを感じる授業では意欲を感じられない姿勢や活動を拒む様子が見られた。理科の授業では、双眼実体顕微鏡を用いた植物の葉の観察において、葉に細かな毛があることに興味を抱き、スケッチをしながら集中して観察に取り組む生徒がいた。一方で、双眼実体顕微鏡の操作やスケッチに難しさを感じ、途中で活動をあきらめてしまう生徒もいた。 生徒Aは、どんなことにも進んで取り組むことができる生徒である。絵を描いたり、プログラミングをしたりすることが得意で、理科の観察や実験も意欲的に行っている。 生徒Bは、やるべきことが分かると丁寧にに取り組むことができる生徒である。理科では、スケッチが得意で対象の生物の細部までよく観察して描くことができた。 生徒Cは、明るく仲間と接したり、何事にも進んで協力したりすることができる生徒である。学級では、雰囲気を和ませる発言をすることもあり、ムードメーカー的な存在である。 生徒Dは、どのようなことにも自分の考えをもち、全体にその考えを共有することのできる生徒である。興味や関心をもったことには、誰よりも先に発言したり取り組んだりしている。 生徒Eは、穏やかで誰とでも協力して物事を進めることのできる生徒である。道德の授業では、登場人物それぞれの立場に立って、丁寧に自分の考えを発言することができた。 生徒Fは、活動内容を理解すると、何事にも一生懸命に取り組むことができる生徒である。また、日本語を勉強中で、Myタブレットで自分の意見を日本語に翻訳して伝えたり、振り返りで積極的に漢字を使ったりするなど日本語を覚えようと頑張っている。
教材観	中学2年の「電気の世界」の単元では、電流や電圧、磁界や静電気についての基本的な性質について学ぶとともに、日常生活や社会と関連付けながら、電流と磁界についての科学的な見方・考え方を養うことをねらいとしている。 この単元の中で本学級の生徒に合わせて、電流や電圧、直列回路や並列回路についての興味を高め、理解を深められるように教材研究や単元構成を工夫していく。特に本単元では、イライラ棒のおもちゃを主たる教材として取り入れ、出合わせ方を工夫することで、学びのきっかけとする。そして、回路の仕組みを学んだ上で実際にイライラ棒を製作し、ブロック交流会で参加した小学生に楽しんでもらう場を設定することで、学びと実生活のつながりを実感できると考える。 授業の振り返りの一環としてユニバーサルデザインのプリント学習も取り入れる。学習内容や観察、実験における学びのおさえとして、理科の基礎的な語句についても理解し、習得できるようにしていきたいと考えた。そして、生徒それぞれの「できた」という達成感を積み重ねる経験にもつなげていきたいと考える。
指導観	本単元の第1時では、市販のイライラ棒を体験する場を設定し、生徒の「おもしろそう」「やってみたい」という意欲を高める。第2時から、クリアファイルのような、透明なシートの下に、実験で組み立てる回路の画像を挟み、その上に実験装置を乗せていくことで回路ができる実験シートを活用する。第2時から第6時で回路を組み立てる支援をすることで、生徒は実験への抵抗感を少なくし、より主体的に実験に取り組めるのではないかと考える。 本時では、自作したイライラ棒をブロック交流会で小学生に遊んでもらうと提案し、授業への意欲を高める。また、生徒が実験に迷わず主体的に取り組めるように、前時までと同じ手順で回路を組み立てて実験を行う。 理科の単元を終えた後に、実際にイライラ棒を製作して生活単元学習へとつなげる。その後、試行錯誤をする中で、より楽しくするにはどのように改良したらよいかを話し合い、小学生の立場に立って考えられるように促していきたい。そして、実生活と理科の学びが繋がっていることに面白さを感じられるようにしていきたい。

2 単元計画（7時間完了）

目 標		(1) 電流や電圧に関する観察や実験を通して、電流や電圧のはたらきを理解するとともに、回路の各点に流れる電流や各点に加わる電圧について基本的な観察や実験の技能を身に付けることができる。【知識及び技能】 (2) 電流や電圧に関する現象について、見通しをもって観察や実験などを行い、規則性や関係性を見いだして表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 電流や電圧に関する事物や現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする。【学びに向かう力、人間性等】	
段 階	時	学習課題	主活動
導 入	1	どうしてイライラ棒は、失敗すると音が鳴るのだろうか	○イライラ棒ゲームを用いて、金属部分が触れると音が鳴る体験をする。
	2	回路に電流が流れるためには、どのような条件が必要だろうか	○乾電池を用いて、電気の流れる回路の仕組みを考える。
展 開	3	直列回路に流れる電流の大きさは、すべて同じになるのだろうか	○直列回路に流れる電流の大きさを測定する。
	4	並列回路に流れる電流の大きさは、すべて同じになるのだろうか	○並列回路に流れる電流の大きさを測定する。
	5	直列回路に加わる電圧の大きさに違いはあるのだろうか	○直列回路に加わる電圧の大きさを測定する。
	6	並列回路に加わる電圧の大きさに違いはあるのだろうか	○並列回路に加わる電圧の大きさを測定する。
終 末	7 本時	自作のイライラ棒を作るためにどうつなげればよいだろうか	○電子オルゴールや豆電球、アルミ線を用いて回路を作り、電流が流れるかを確認する。
生活 単元 学習	1	みんなが楽しめるには、どんなイライラ棒ゲームにすればよいだろうか	○さまざまな形のイライラ棒ゲームを調べ、どのような作品を作るか考える。
	2	ブロック交流会で楽しんでもらえるイライラ棒を製作しよう	○ブロック交流会で、小学生が楽しんで体験できるものを自作する。
	3	ブロック交流会で、楽しんでもらえるようにもてなそう	○ブロック交流会で、小学生に体験してもらう。
	4	ブロック交流会の振り返りをしよう	○小学生の様子やアンケート結果から、よかったところや改善が必要なところを考える。
評価規準		①電流や電圧に関する事物や現象を日常生活と関連付けながら、回路の種類や電流の流れ方など基本的な知識や仕組みについて理解するとともに、電流計や電圧計の操作や記録の仕方などの基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 ②直列回路や並列回路における電流や電圧の大きさについて、回路の組み方を考えて、実験などを行い、その結果から直列回路では電流が一定になることや並列回路では電圧が同じ大きさになることなどの規則性に気付き、表現することができたか。【思考・判断・表現】 ③イライラ棒など電気が関係する現象に興味をもち、実験の準備や片付けに進んで取り組み、電流や電圧について自ら探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	

3 本時の授業（7／7時）

目 標	生徒A：実験結果を基に規則性や差異性を見だし、回路図と関連付けて考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 生徒B：授業に見通しをもち、仲間と協力して観察や実験に取り組もうとする。 【学びに向かう力、人間性等】 生徒C：授業に見通しをもち、観察や実験に自ら進んで取り組もうとする。 【学びに向かう力、人間性等】 生徒D：実験の目的を理解し、結果を基に科学的に考えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】 生徒E：観察や実験に主体的に取り組む、結果を基にして規則性に気付くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 生徒F：観察や実験の方法を理解し、仲間と協力して観察や実験に取り組もうとする。 【学びに向かう力、人間性等】
手だて	【手だてⅡ（b）】生徒が自分の考えを表現しやすいよう、また、見通しをもって観察や実験することができるよう、回路を組み立てるための実験シートを活用する。 ※個別の手だてについては以下の「教師の支援」に記載。
段 階	生徒の活動（時間） 教師の支援 ★中心となる手だて
導 入 （5）	1 アルミ線と豆電球、電子オルゴールを使って自作のイライラ棒を製作することを確認する。（4） ・イライラ棒って自分で作れるのかな。 ・イライラ棒を作るには、どうすればいいのかな。 ・金属が当たって光ったり音が鳴ったりするようにしないとイケないね。 2 学習課題をつかむ。（1） ・ブロック交流会では、僕の作ったイライラ棒でぜひ遊んでもらいたいな。 ・単元の初めに体験したイライラ棒を提示し、金属同士が触れることで、電球が点灯し音が鳴ることを確認する場を設ける。 ・活動への意欲を高めるために、自作したイライラ棒をブロック交流会で小学生に体験してもらうことを伝える。 ・実験方法を理解したり自分の考えを言語化しやすくしたりするために、Myタブレットを活用する。（生徒F） 自作のイライラ棒を作るためにどうつなげればよいだろうか
展 開 （36）	3 生徒個人の目標を確認する。（2） ・今日は、「友達と協力する」を目標にしよう。 ・前と同じで「意見をたくさん言う」かな。 4 つなぎ方にはどんな組み合わせがあるのかを考え、成り立つものを予想する。（10）  ①…豆電球 ②…電子オルゴール ③…イライラ棒 ・①は並列回路だね。 ・僕は、上から順番に豆電球、電子オルゴール、イライラ棒のシールを貼るね。○○さんは、順番を変えてね。 ・②は、イライラ棒のおもちゃになりそうだ。 ・③は並列回路と直列回路が混ざっているんだね。この回路でうまくいくのかな。 5 考えた回路の組み合わせを実際につなげ、イライラ棒として成立するかを実験する。（18） ・視覚的に分かりやすくして、生徒が自分の目標を立てられるように、複数の目標を選択肢として黒板に示す。 ・前時までの学習が想起できるように、①並列回路、②直列回路、③並列と直列を混ぜた回路の図を提示する。 ・仲間と相談しながら安心して観察や実験に取り組めるように、意図的な班編成を行う。（生徒B） ★器具の組み合わせを整理して考えられるよう、3種類の回路の枠がかかれた実験シートと三つの装置のシールを配付する。 ・生徒が予想を発表した後に理由を言えるようにするために、「なぜそう考えたのかな」と問いかける。 ・達成感を高めるため、前時までの学びを想起できている生徒を称賛する。 ★見通しをもてるよう、実験シート用いて実践しながら説明をする。 ・生徒が主体的に実験に取り組みたいとき

	・実験のシートに同じようにイライラ棒と豆電球と電子オルゴールを置けばいいから、間違えないでできそうだ。 ・どうやってやればよかったっけ。もう一回お手本を見てみよう。 ・①はやっぱりずっと光ったり音が鳴ったりしているから、金属の部分を当てても意味がないね。 ・②はイライラ棒みたいになっているんじゃないかな。 ・③もずっと光っているものもイライラ棒みたいになっているものもあるね。 6 実験の結果の整理を行う。また、自作のイライラ棒を作る時、どの回路にすれば成り立つのかを確認する。(6) ・①はどの組み合わせもずっと光っていたからイライラ棒には使えないね。 ・②は、全部のパターンでイライラ棒みたいにできたから、②はイライラ棒で使えそうだ。 ・③は、できるパターンとできないパターンがあるみたいだ。 ・③で音や光が出るときは、イライラ棒の置く場所が一緒だね。	に、個別で十分な探究ができるよう、予備の実験セットと場を設定する。(生徒A) ・実験に迷わずに取り組めるように、個別に実験の進め方を確認したり、手掛かりとなる見本を提示したりする。(生徒C) ・生徒の実験結果を整理し、考えの見通しがもてるように板書を工夫する。 ・実験に自ら取り組めない時に、活動に安心して参加できるように、仲間の実験の様子を観察する中で「気付いたことがあれば教えて」と実験以外での参加の仕方を提示する。(生徒D) ・実験結果から規則性を見だしやすくするために、各班で用いた実験シートを黒板に貼り、結果を視覚的にわかるように整理しながら板書でまとめていく。(生徒E) ・生徒が同じ結果だと気付いた場合には「詳しく教えて」と問いかけ、規則性が見られる部分を明らかにする。 ・③の回路でイライラ棒が成立できるかどうか迷う時には、共通点や相違点に注目できるように③の結果を抽出して並べる。 ・結果が異なる場合や、電流や電圧が関係しているのではないかと考えた場合は、探究できるように追実験を行う場を設ける。
整 理 ・ 発 展 (9)	7 本時の学びを整理する。(1)	・どの回路を作ればよいかを確認する。
	イライラ棒の金属の部分と豆電球や電子オルゴールを直列につなぐとよいとわかった	
	8 個人で振り返りをする。(2)	・迷わずに振り返りができるように、選択肢を設けた振り返りプリントを用意する。
	9 重要語句を確認し、プリントに取り組む。(3)	・知識の定着のため、重要語句をまとめたユニバーサルデザインのプリントに取り組むように促す。
評 価	10 クリエイティブチャットに取り組む。(3)	・もし意見が出なかった場合は、ブロック交流会に意識を向けるため「どんなイライラ棒にすると面白そうかな」と問いかける。
	生徒A：実験結果を基に考察し、直列回路ではイライラ棒が成立するが、並列回路では成立しないことについて、回路図を用いて説明することができたか。 【思考・判断・表現】 生徒B：観察や実験の進め方を理解し、仲間と役割を分担したり相談したりしながら活動に取り組むことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 生徒C：観察や実験の手順を理解し、積極的に回路を組み立てて実験に取り組み、結果を進んで記録、整理をすることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 生徒D：イライラ棒が成立する回路について、実験結果を根拠にしながら自分の考えを伝えることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 生徒E：進んで回路を組み立てて実験を行い、直列回路では全ての組み合わせでイライラ棒が成立することに気付くことができたか。 【思考・判断・表現】 生徒F：仲間とともに実験の手順を確認し、イライラ棒が成立する実験結果について共有することができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】	

[illegible]

[illegible]

